

令和7年度

企業局概要



PUBLIC ENTERPRISE BUREAU YAMAGUCHI PREFECTURAL GOVERNMENT

山口県企業局は、水資源を有効利用し、県産業の発展に寄与します。



工業用水道事業

山口県の自然に恵まれた良質な水を
瀬戸内海沿岸の工業地帯に供給しています。
その給水能力は、全国一を誇ります。



電気事業

地域の水資源を有効に活用する「水力発電」
に取り組んでいます。
環境に優しいクリーンエネルギーを供給します。

目 次

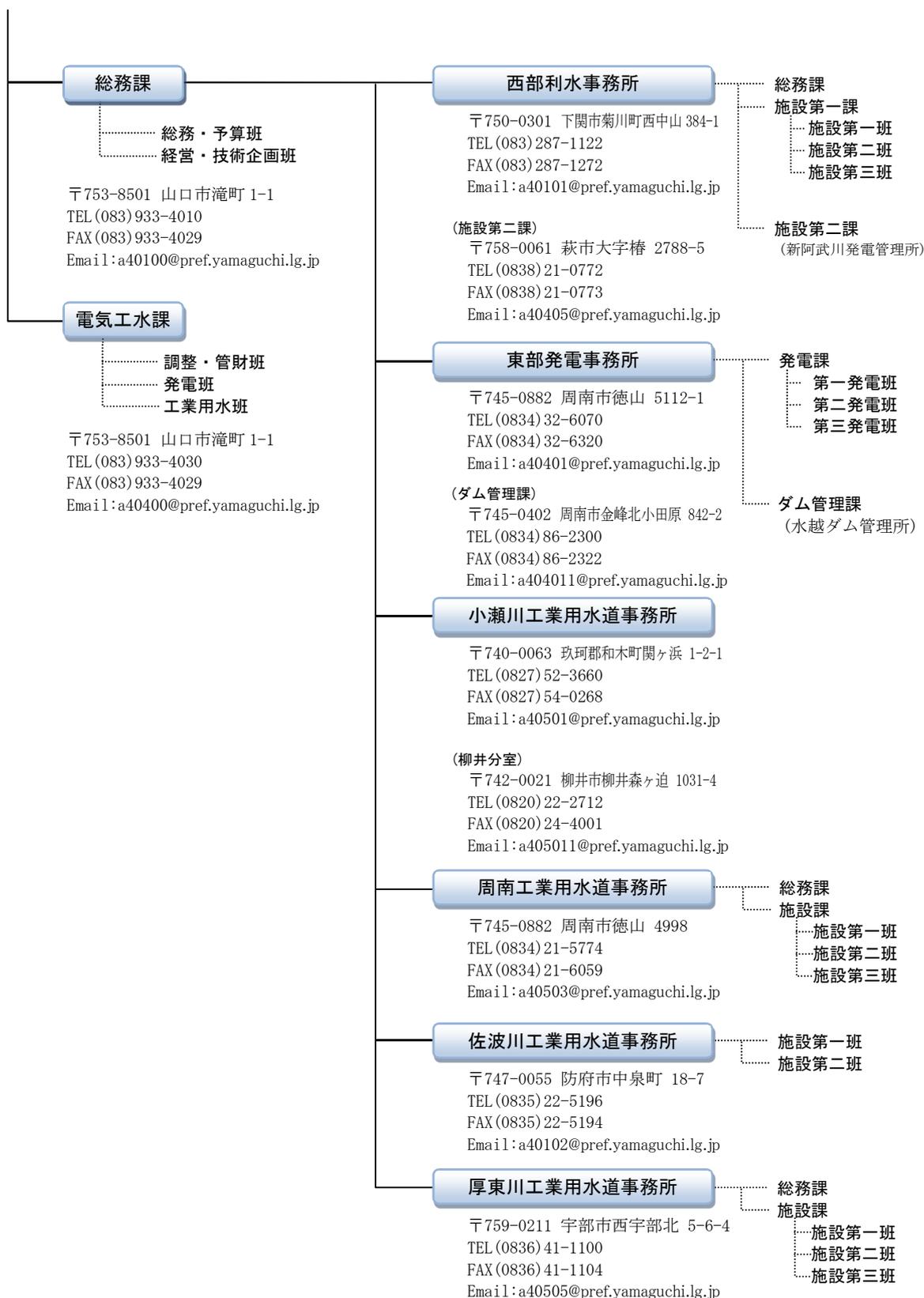
I 組織等の概要	
1 企業局の組織と所在地	1
2 課所別職員数一覧表	2
II 山口県企業局事業概要図	3
III 電気事業の概要	
1 施設の総括表	4
2 各施設	
(1) 菅野発電所	6
(2) 水越発電所	7
(3) 徳山発電所	9
(4) 本郷川発電所	10
(5) 生見川発電所	11
(6) 小瀬川発電所	12
(7) 末武川発電所	13
(8) 佐波川発電所	14
(9) 平瀬発電所	15
(10) 木屋川発電所	16
(11) 新阿武川発電所	17
(12) 相原発電所	19
(13) 宇部丸山発電所	20
IV 工業用水道事業の概要	
1 施設の総括表	21
2 各施設	
(1) 小瀬川工業用水道	22
(2) 小瀬川第2期工業用水道	24
(3) 生見川工業用水道	26
(4) 島田川工業用水道	28
(5) 末武川工業用水道	29
(6) 周南工業用水道	30
(7) 向道・川上工業用水道	31
(8) 富田・夜市川工業用水道	32
(9) 佐波川工業用水道	35
(10) 佐波川第2期工業用水道	36
(11) 厚東川工業用水道	38
(12) 厚東川第2期工業用水道	39
(13) 厚狭川工業用水道	40
(14) 木屋川工業用水道	43
(15) 木屋川第2期工業用水道	44
V 資 料	
1 企業局の沿革	46
2 山口県企業局関係ダム一覧表	48

I 組織等の概要

1 企業局の組織と所在地

○ 公営企業管理者

○ 企業局長



2 課所別職員数一覧表（令和7年4月1日現在）

所属／職種	事務	土木	電気	計
総務課	15	1	2	18
電気工水課	5	4	8	17
本局計	20	5	10	35
西部利水事務所	2	3	11	16
東部発電事務所	1		18	19
小瀬川工業用水道事務所			5	5
周南工業用水道事務所	2	4	11	17
佐波川工業用水道事務所	1		9	10
厚東川工業用水道事務所	2	5	9	16
事業所計	8	12	63	83
合計	28	17	73	118

- (注) 1 公営企業管理者は含まない
 2 小瀬川工業用水道事務所柳井分室職員は、柳井土木建築事務所職員併任のため本表には掲載していない

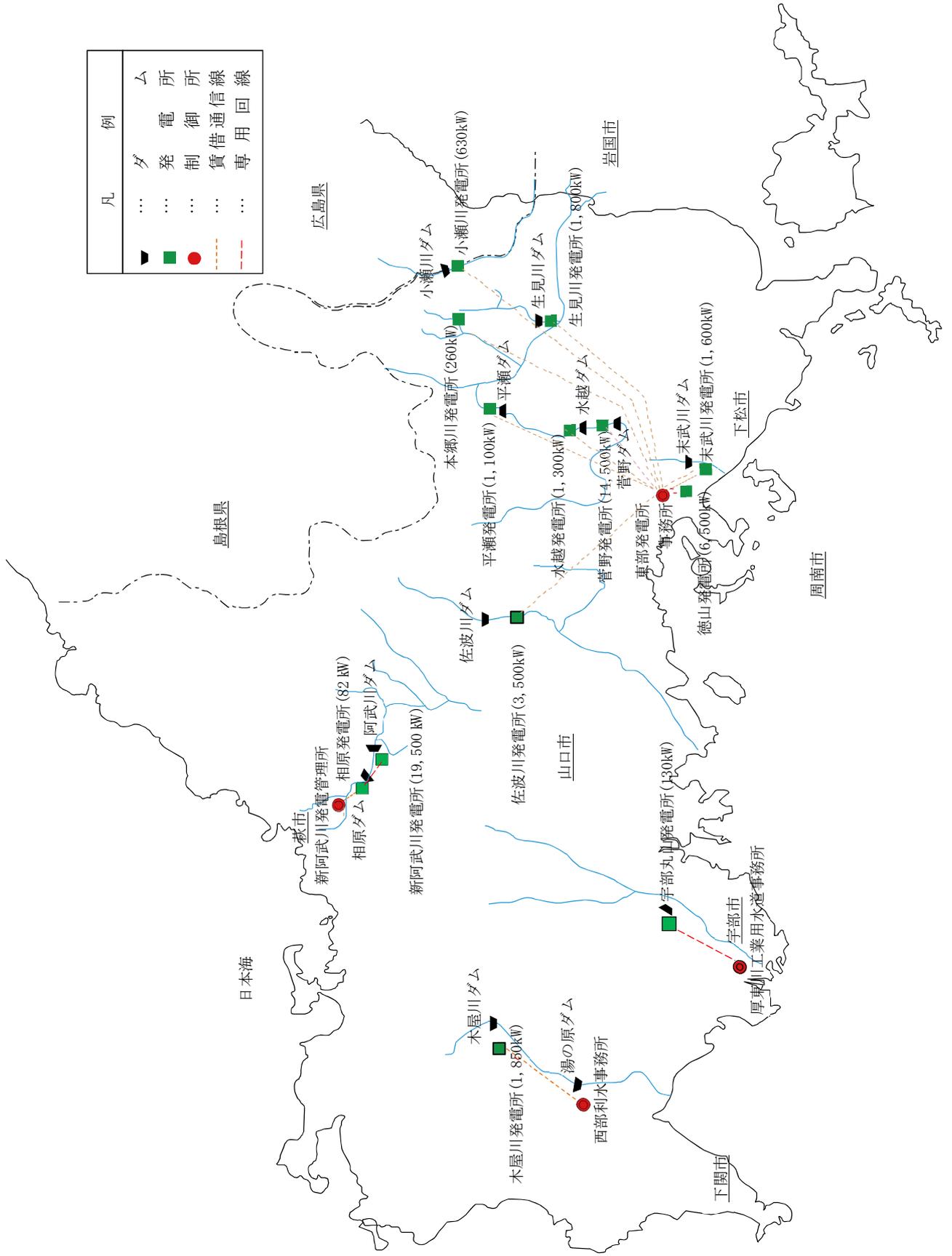
Ⅲ 電気事業の概要

1 施設の総括表

発電所名	最大出力 (kW)	年間送電 電力量 (千 kWh)	運転開始年月	制御所
(1) 菅野発電所	14,500	28,743	昭和40年 8月	東部発電事務所
(2) 水越発電所	1,300	3,192	昭和40年 9月	
(3) 徳山発電所	6,500	27,331	昭和40年10月	
(4) 本郷川発電所	260	998	昭和58年 7月	
(5) 生見川発電所	1,800	7,305	昭和59年 6月	
(6) 小瀬川発電所 [※]	630	2,979	平成元年 4月	
(7) 末武川発電所	1,600	5,016	平成 4年 3月	
(8) 佐波川発電所	3,500	9,149	昭和31年 9月	
(9) 平瀬発電所 [※]	1,100	5,250	令和 7年 3月	
(10) 木屋川発電所	1,850	4,847	昭和30年 2月	西部利水事務所
(11) 新阿武川発電所	19,500	67,323	昭和50年 3月	西部利水事務所 (新阿武川発電管理所)
(12) 相原発電所 [※]	82	328	平成26年 5月	
(13) 宇部丸山発電所 [※]	130	571	平成28年 4月	厚東川工業用水道事務所
合計	52,752	163,032	—	—

注) 発生した電力はミツウロコグリーンエネルギー㈱に販売している。

※ 再生可能エネルギーの固定価格買取制度 (FIT) を適用した発電所
(中国電力㈱又は中国電力ネットワーク㈱に販売)



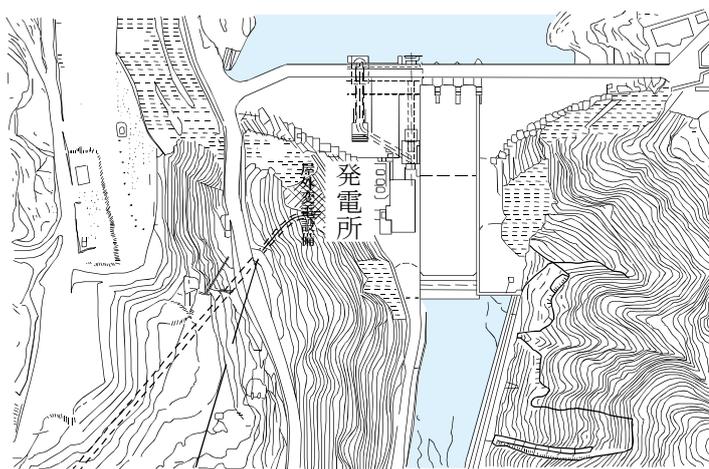
2 各施設

(1) 菅野^{すがの}発電所

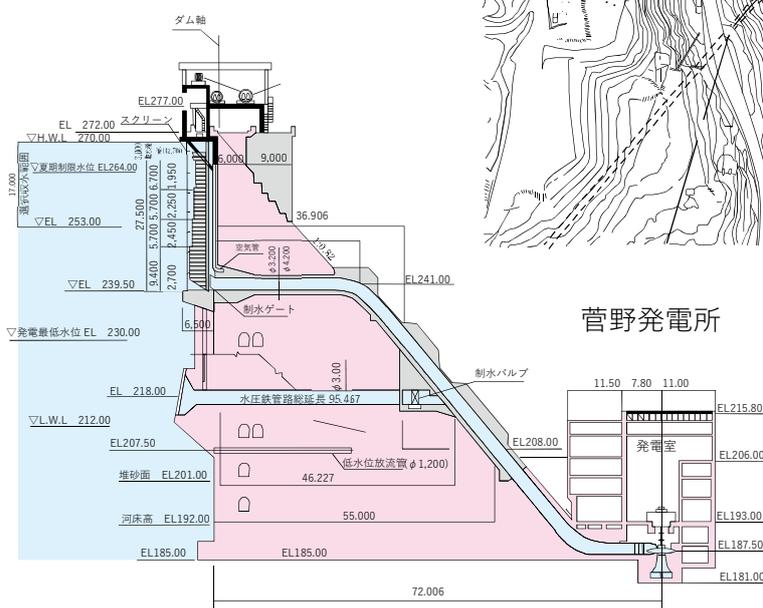
菅野発電所は、錦川総合開発事業の一環として昭和40年に水越発電所、徳山発電所とともに建設したものであり、菅野ダムの直下で最大出力14,500kWのピーク発電を行っている。※ピーク発電：朝、昼、夕方、夜の電気の需要時に発電すること。

所在地	周南市大字 ^{みたけ} 金峰 ^{まつむろ} 字東松室2986番地4		
運転開始年月	昭和40年8月		
発電所型式	ダム式		
出力	最大 14,500kW	常時 0kW	常時尖頭 5,300kW
使用水量	最大 21.00 m ³ /s	常時 2.90 m ³ /s	常時尖頭 18.00 m ³ /s
有効落差	最大 81.60m	常時 62.95m	常時尖頭 41.95m
発電機	三相交流同期発電機 容量 16,000kVA 1台 発電機電圧 10,500V		
水車	立軸フランシス水車 15,480kW 1台		
主要変圧器	屋外用三相油入自冷式内鉄室素封入型 容量 16,000kVA 1台 1次電圧 10,500V 2次電圧 66,000V		
ダム	菅野ダム（治水・工水・上水・発電） 重力式コンクリートダム 堤高 87.0m 堤長 272.0m 堤体積 384,000 m ³ 総貯水容量 95,000 千m ³ 発電有効容量 79,000 千m ³		
取水設備 （選択取水）	半円形シリンダーゲート（4段） 水圧鉄管 長さ 80.8m 内径 3.0m 1条		
水圧鉄管	長さ 95.5m 内径 3.0m 1条		

菅野ダム、発電所平面図



菅野ダム、発電所断面図



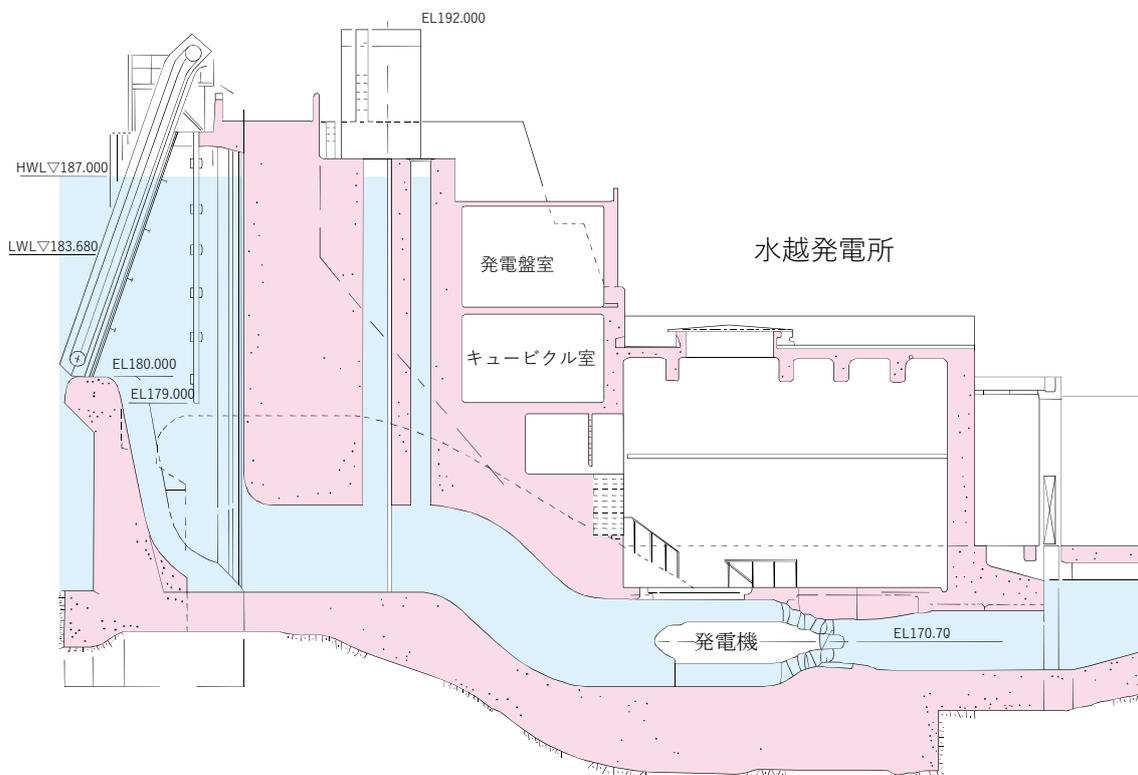
(2) ^{みずこし}水越発電所

ア 発電所

水越発電所は、錦川総合開発事業の一環として昭和40年に菅野発電所、徳山発電所とともに建設したものであり、水越ダム（逆調整池）の直下で最大出力1,300kWの発電を行っている。

所在地	周南市大字 ^{みたけ} 金峰字北小田原 842 番地 2
運転開始年月	昭和 40 年 9 月
発電所型式	ダム式
出力	最大 1,300kW 常時 320kW
使用水量	最大 12.00 m ³ /s 常時 3.46 m ³ /s
有効落差	最大 13.69m 常時 12.43m
発電機	三相交流誘導発電機 1,300kW 1 台 発電機電圧 6,600V
水車	横軸円筒可動羽根プロペラ水車 1,400kW 1 台
ダム	水越ダム（発電）
水圧鉄管	長さ 14.6m 内径 3.0m 1 条
その他	取水口自動除塵機：前面降下背面揚形ロータリーレーキ式

水越ダム、発電所断面図

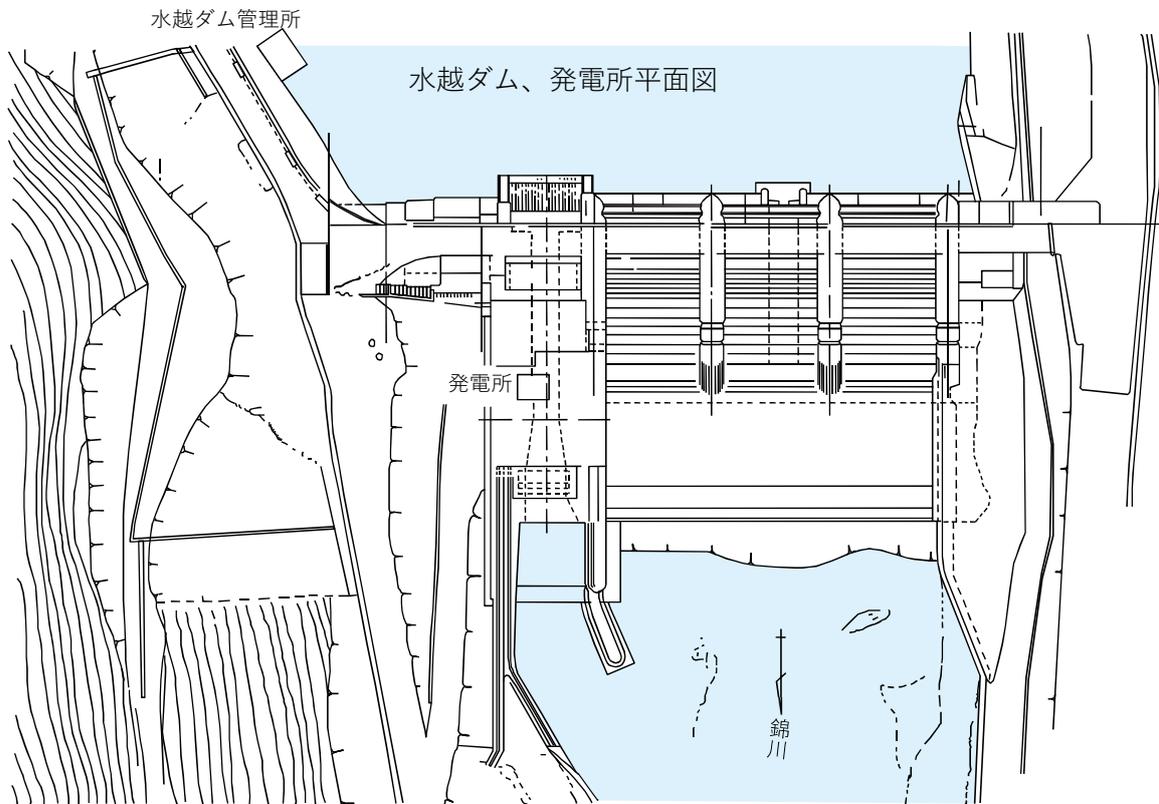


イ 水越ダム

水越ダムでは、菅野発電所が使用した流水の調整及び下流維持用水の供給を行うとともに、徳山発電所や上水・工業用水の供給を行っている。

また、流水の効率的運用のため、金峰取水堰からの取水管理等を行っている。

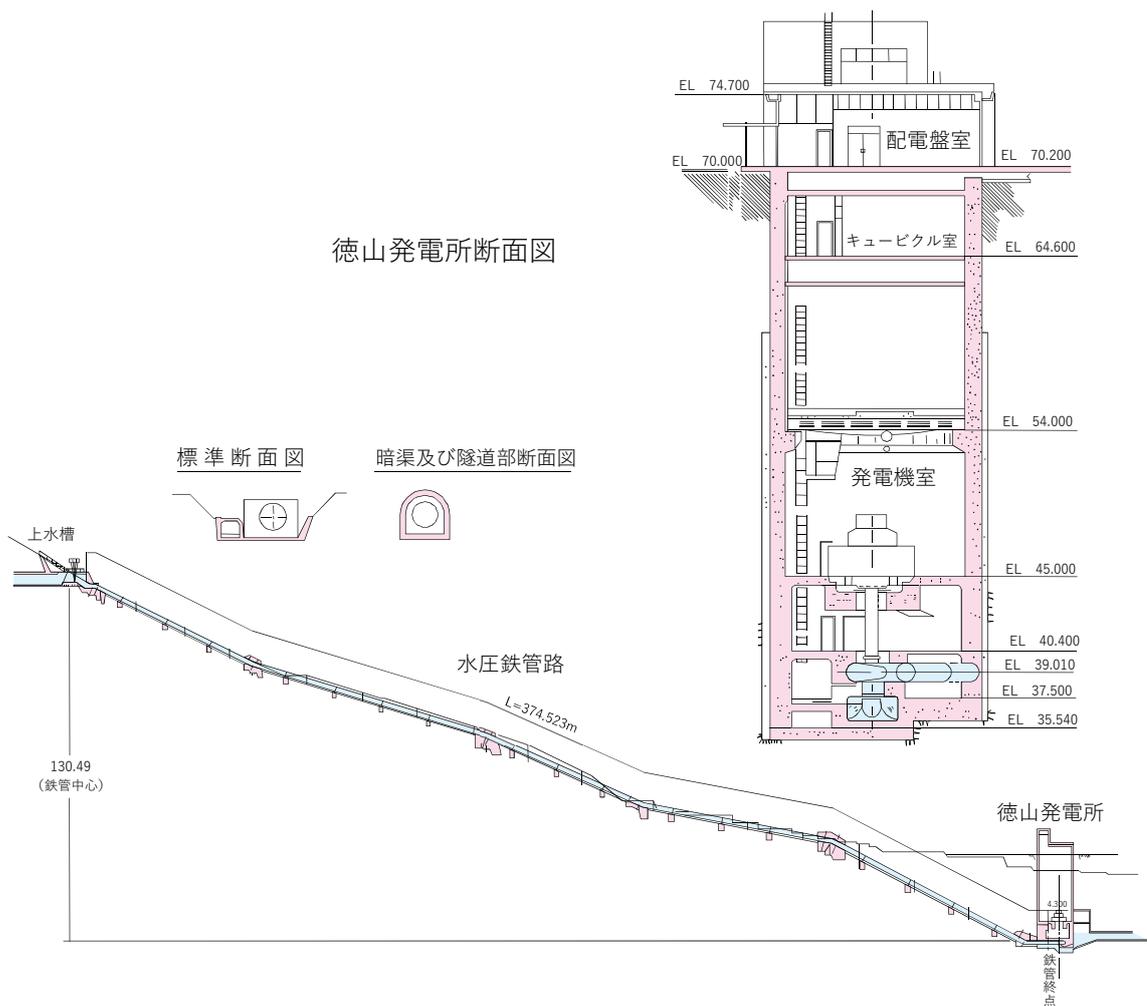
所在地	周南市大字 ^{みたけ} 金峰字北小田原
ダム	水越ダム 重力式コンクリートダム 堤高 18.8m 堤長 81.7m 堤体積 9,800 m ³ 総貯水容量 796 千m ³ 発電有効容量 400 千m ³
洪水吐ゲート	テンターゲート 8.8m×10.0m 3門
徳山導水路設備	取水口ゲート：鉄製ローラーゲート 2.6m×2.5m 1門 自動除塵機：ワイヤーロープ巻取型走行式 1台 チェーンコンベア：鋼製フレームフライト付チェーンコンベア 1基
金峰取水設備	転倒ゲート：油圧式直圧自動転倒ゲート 1.0m×11.0m 1門 取水口ゲート：鋼製ローラーゲート 1.8m×1.8m 1門 排砂門ゲート：鋼製ローラーゲート 2.0m×2.0m 1門
金峰取水路	側壁鉛直上半円型 1.8m×1.6m 長さ 2,731.28m



(3) とくやま 徳山発電所

徳山発電所は錦川総合開発事業の一環として昭和40年に菅野発電所、水越発電所とともに建設したものであり、水越ダムから約14kmの隧道で周南地区へ導水し、最大出力6,500kWの発電を行っている。

所在地	周南市大字徳山 5112 番地 1
運転開始年月	昭和40年10月
発電所型式	ダム水路式
出力	最大 6,500kW 常時 5,800kW
使用水量	最大 6.00 m ³ /s 常時 5.15 m ³ /s
有効落差	最大 131.61m 常時 132.31m
発電機	三相交流同期発電機 7,300kVA 1台 発電機電圧 6,600V
水車	立軸フランシス水車 6,900kW 1台
ダム	水越ダム
導水路	無圧隧道 高さ 2.3m 巾 2.3m 長さ 14,348m
水圧鉄管	長さ 374.5m 内径 1.8m 1条

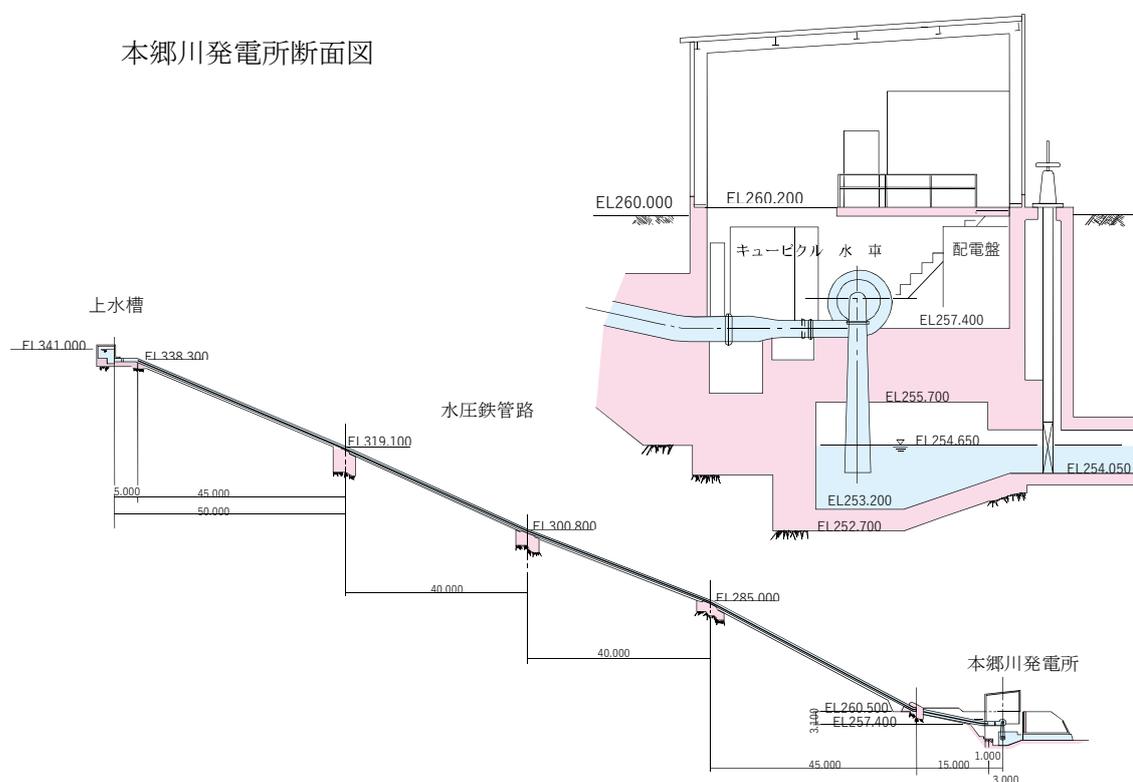


(4) ^{ほんごうがわ}本郷川発電所

本郷川発電所は、中小水力発電開発の一環として昭和 58 年に建設したものであり既設の農業用取水堰及び水路を改造して発電と共同利用したもので、水路の途中に設けた水槽から分水し、最大出力 260kW の発電を行っている。

所在地	岩国市本郷町本郷字引地 2270 番地 2
運転開始年月	昭和 58 年 7 月
発電所型式	水路式
出力	最大 260kW 常時 53kW
使用水量	最大 0.40 m ³ /s 常時 0.11 m ³ /s
有効落差	最大 85.30m 常時 86.30m
発電機	三相交流誘導発電機 260kW 1台 発電機電圧 3,300V
水車	横軸フランシス水車 280kW 1台
主要変圧器	屋外用油入自冷式変圧器 空気密閉型 容量 500kVA 1台 1次電圧 3,300V 2次電圧 6,300V
取水堰	重力式コンクリート 高さ 2.4m 長さ 13.5m 油圧式自動転倒ゲート 1.2m×7.0m
導水路	開渠部：長さ 35.0m 暗渠部：強化プラスチック複合管 長さ 1,443.1m 内径 0.70m
上水槽	鉄筋コンクリート製 高さ 2.6m 巾 1.8m 長さ 7.6m
水圧鉄管	長さ 208.0m 内径 0.6m 1条

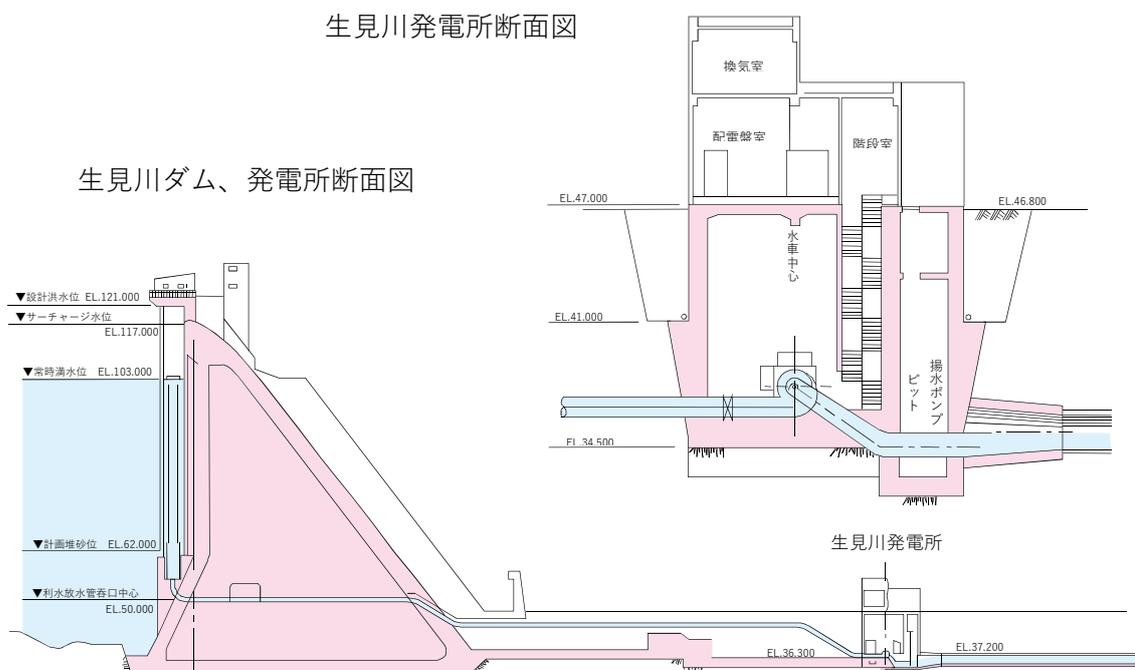
本郷川発電所断面図



(5) ^{いきみがわ}生見川発電所

生見川発電所は、中小水力発電開発の一環として生見川総合開発事業に途中参加し、昭和59年に建設したものであり、生見川ダムの利水放流管から分岐し、生見川ダムの直下で最大出力1,800kWの発電を行っている。

所在地	岩国市美川町南桑 ^{なぐわ} 字カシ原 11691 番地 6
運転開始年月	昭和59年6月
発電所型式	ダム式
出力	最大1,800kW 常時0kW
使用水量	最大3.50 m ³ /s 常時0.15 m ³ /s
有効落差	最大64.50m 常時47.35m
発電機	三相交流誘導発電機 1,800kW 1台 発電機電圧6,600V
水車	横軸フランシス水車 1,920kW 1台
主要変圧器	屋外用三相油入自冷式内鉄室素封入密閉型 容量2,100kVA 1台 1次電圧6,600V 2次電圧6,600V
ダム	生見川ダム(治水・正常流量の確保・工水・発電) 重力式コンクリートダム 堤高90.0m 堤長215.0m 堤体積360,870 m ³ 総貯水容量30,800 千m ³ 発電有効容量なし(従属発電)
取水設備 (選択取水)	堰体支持型鋼製取水塔 鋼製円筒形多段式シリンダーゲート(5段)
水圧鉄管	長さ176.4m 内径1.2m 1条



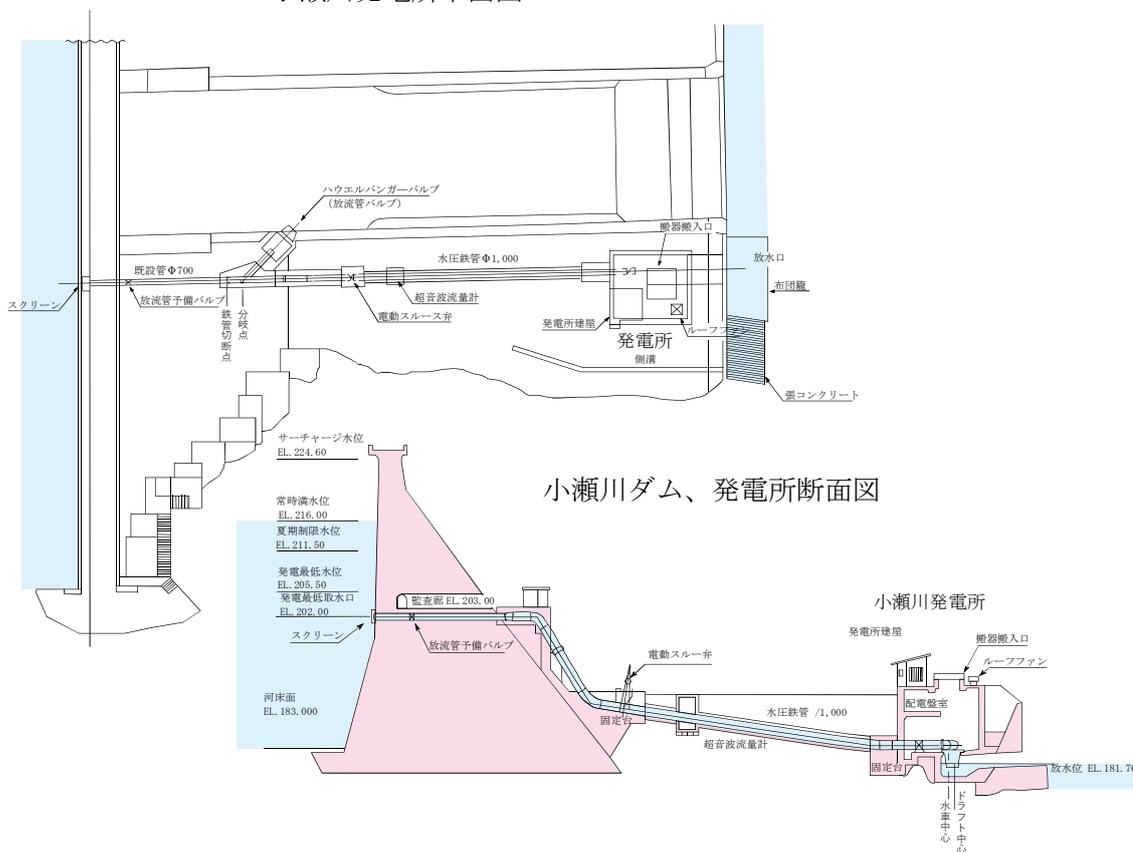
(6) ^{おせがわ}小瀬川発電所

小瀬川発電所は、小瀬川ダムから利水放流されている水を有効利用するために平成元年に建設したものであり、既設放流管から分岐し、小瀬川ダムの直下で最大出力630kWの発電を行っている。

なお、当発電所は、令和2年3月に「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」に基づき、再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）の対象発電所となっている。

所在地	岩国市美和町釜ヶ原字土打 479 番地 4
運転開始年月	平成元年 4 月
発電所型式	ダム式
出力	最大 630kW 常時 168kW
使用水量	最大 3.00 m ³ /s 常時 1.07 m ³ /s
有効落差	最大 29.27m 常時 27.42m
発電機	三相交流同期発電機 容量 650kVA 1 台 発電機電圧 6,600V
水車	横軸単輪クロスフロー水車 690kW 1 台
ダム	小瀬川ダム（治水・工水・発電） 重力式コンクリートダム 堤高 49.0m 堤長 158.0m 堤体積 96,400 m ³ 総貯水容量 11,400 千 m ³ 発電有効容量なし（従属発電）
水圧鉄管	長さ 78.5m 内径 1.1m 1 条

小瀬川発電所平面図

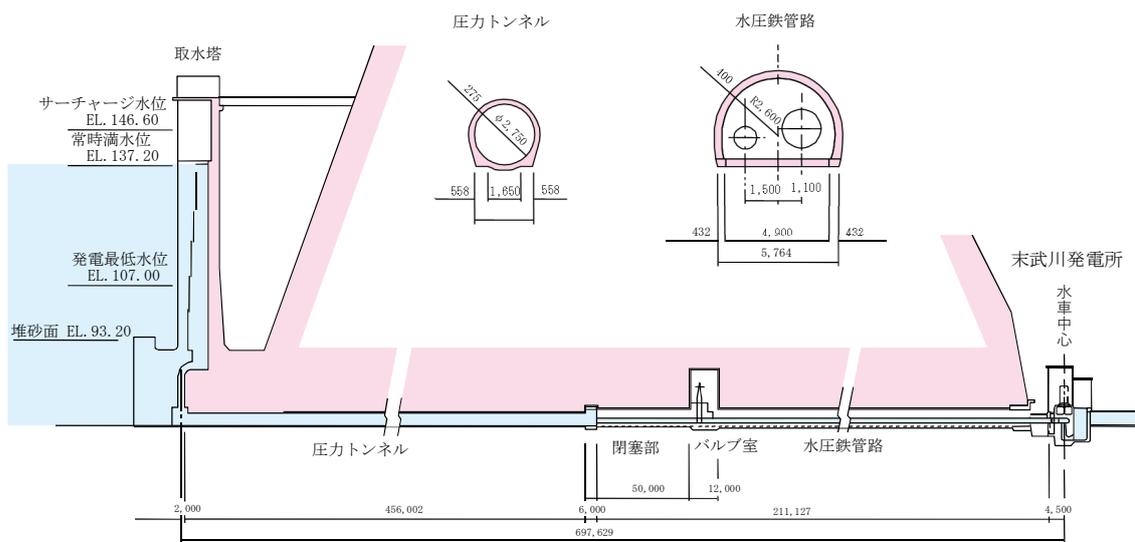


(7) ^{すえたけがわ}末武川発電所

末武川発電所は、周南総合開発事業の一環として平成4年に建設したものであり、末武川ダムの直下で最大出力1,600kWの発電を行っている。

所在地	下松市大字瀬戸字楮浴 ^{こうぞまき} 627番地2
運転開始年月	平成4年3月
発電所型式	ダム式
出力	最大1,600kW 常時0kW
使用水量	最大3.60 m ³ /s 常時0.411 m ³ /s
有効落差	最大57.20m 常時40.69m
発電機	三相交流誘導発電機 1,600kW 1台 発電機電圧6,600V
水車	立軸フランシス水車 1,700kW 1台
ダム	末武川ダム (治水・正常流量の確保・上水・工水・発電) 中央コア型ロックフィルダム 堤高89.5m 堤長275.0m 堤体積2,723千m ³ 総貯水容量19,570千m ³ 発電有効容量なし (従属発電)
取水設備 (表面取水)	独立式鋼製取水塔 鋼製鉛直直線形多段式ゲート (5段)
導水路	円形コンクリート巻立圧力隧道 長さ456.0m 内径2.75m
水圧鉄管	長さ211.1m 内径1.0m 1条

末武川発電所断面図

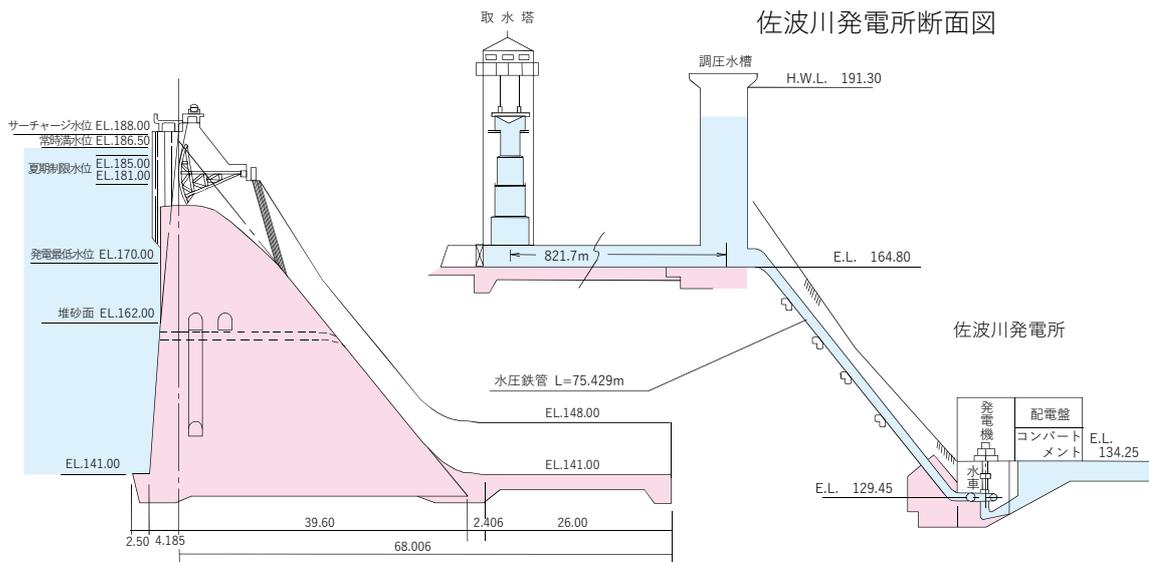


(8) 佐波川発電所

佐波川発電所は、佐波川総合開発事業の一環として昭和31年に建設したものであり、佐波川ダムから約800mの隧道で導水し、最大出力3,500kWの発電を行っている。

所在地	山口市徳地船路字滝下 1096 番地 1
運転開始年月	昭和31年9月
発電所型式	ダム水路式
出力	最大 3,500kW 常時 880kW
使用水量	最大 8.00 m ³ /s 常時 2.35 m ³ /s
有効落差	最大 55.14m 常時 49.35m
発電機	三相交流同期発電機 容量 2,100kVA 2台 発電機電圧 3,300V
水車	立軸フランシス水車 2,040kW 2台
変圧器	屋外用三相油入自冷式内鉄窒素封入型 容量 2,100kVA 2台 1次電圧 3,150V 2次電圧 22,000V
ダム	佐波川ダム (治水・正常流量の確保・工水・発電) 重力式コンクリートダム 堤高 54.0m 堤長 156.0m 堤体積 100,000 m ³ 総貯水容量 24,600 千 m ³ 発電有効容量 15,000 千 m ³
取水設備 (表面取水)	鋼製独立塔式取水塔 鋼製シリンダーゲート (4段)
導水路	円筒型無筋圧力隧道 長さ 821.7m 内径 2.4m
調圧水槽	円筒型 高さ 29.3m 内径 7.0m
水圧鉄管	長さ 75.4m 内径 1.8m 1条

佐波川ダム断面図

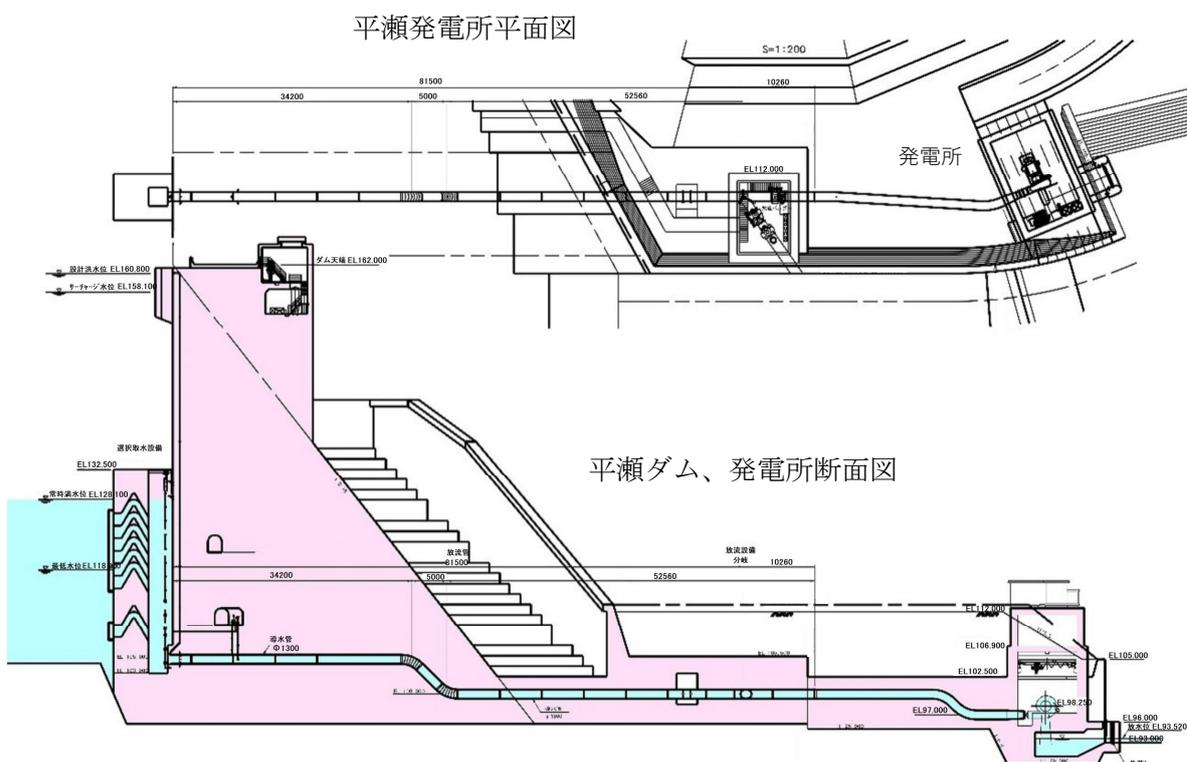


(9) ^{ひらせ}平瀬発電所

平瀬発電所は、錦川総合開発事業の一環として令和7年に建設したものであり、平瀬ダムの直下で最大出力1,100kWの発電を行っている。

なお、当発電所は、令和7年3月に「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」に基づき、再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）の対象発電所となっている。

所在地	岩国市錦町広瀬
運転開始年月	令和7年3月
発電所型式	ダム式
出力	最大1,100kW
使用水量	最大4.00 m ³ /s
有効落差	最大32.80 m
発電機	三相交流同期発電機 1,230kVA 1台 発電機電圧 6,600V
水車	横軸フランシス水車 1,150kW 1台
ダム	平瀬ダム（治水・正常流量の確保・上水・発電） 重力式コンクリートダム 堤高73.0m 堤長300.0m 堤体積340,000 m ³ 総貯水容量29,500千m ³ 発電有効容量なし（従属発電）
取水設備 （選択取水）	連続サイフォン式 幅2.0m×高さ1.8m×6段
水圧鉄管	長さ124.9m 内径1.3m 1条

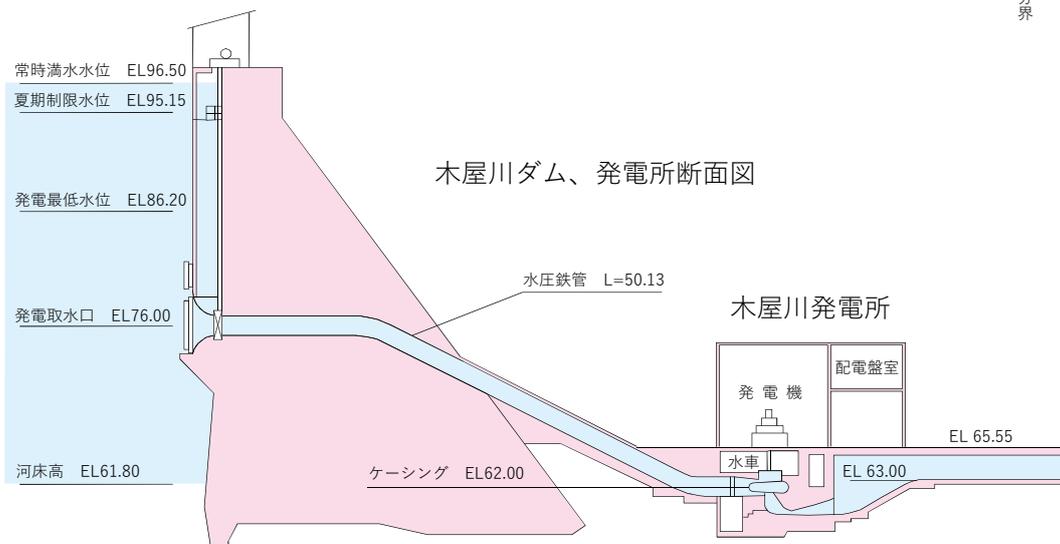
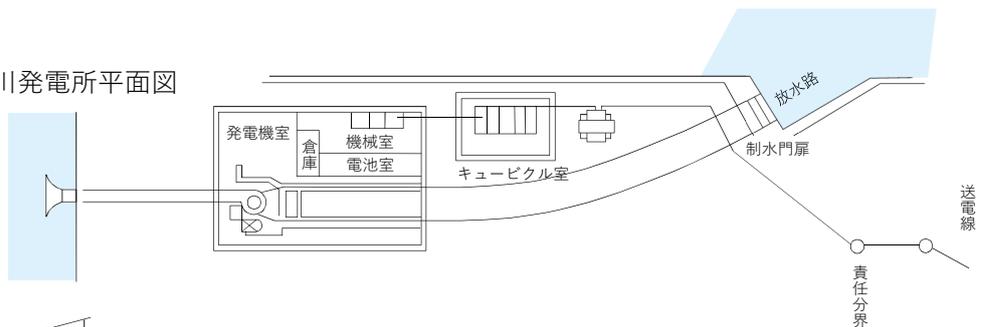


(10) 木屋川^{こやがわ}発電所

木屋川発電所は、木屋川総合開発事業の一環として昭和30年に建設したものであり、木屋川ダムの直下で最大出力1,850kWのピーク発電を行っている。

所在地	下関市豊田町大字大河内字井手ケ平 106 番地 9
運転開始年月	昭和30年2月
発電所型式	ダム式
出力	最大 1,850kW 常時 540kW 常時尖頭 1,330kW
使用水量	最大 7.00 m ³ /s 常時 2.91 m ³ /s 常時尖頭 7.00 m ³ /s
有効落差	最大 32.00m 常時 24.35m 常時尖頭 23.50m
発電機	三相交流同期発電機 容量 2,180kVA 1台 発電機電圧 3,300V
水車	立軸カプラン水車 1,950kW 1台
主要変圧器	屋外用三相油入自冷式内鉄型 容量 2,250kVA 1台 1次電圧 3,150V 2次電圧 6,600V
ダム	木屋川ダム (治水・正常流量の確保・工水・上水・発電) 重力式コンクリートダム 堤高41.0m 堤長174.3m 堤体積84,500 m ³ 総貯水容量21,750 千m ³ 発電有効容量 12,820 千m ³
水圧鉄管	長さ 50.1m 内径 1.6m 1条

木屋川発電所平面図



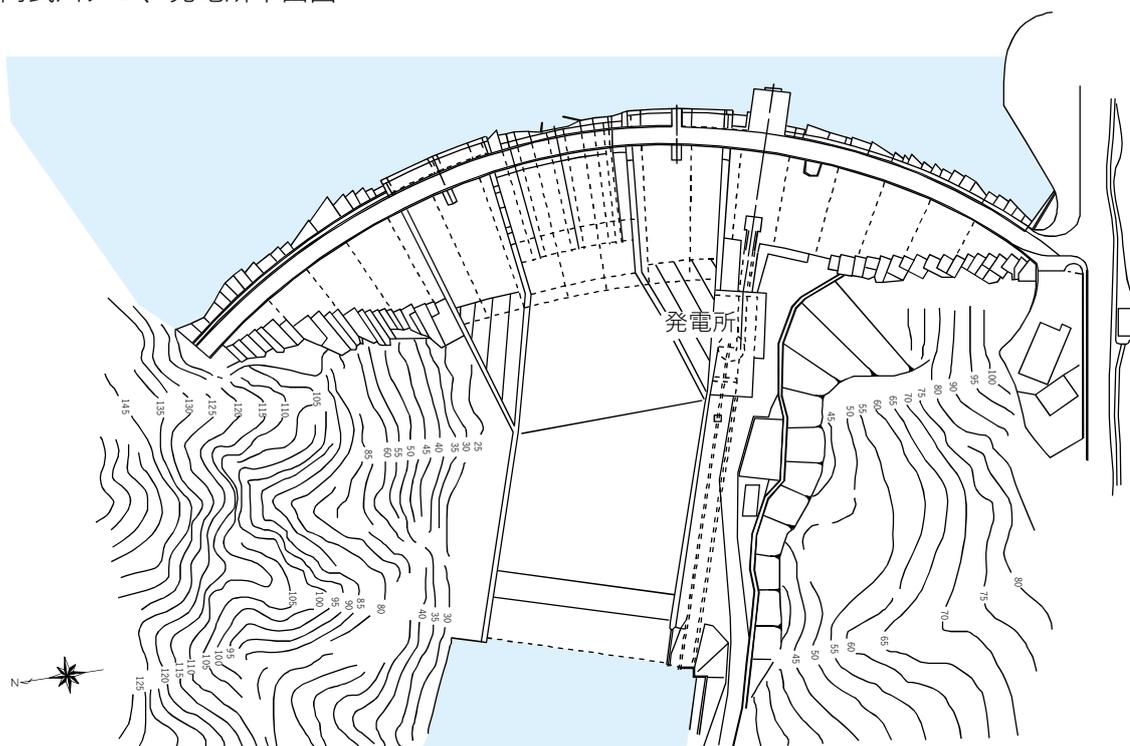
(11) ^{しんあぶがわ}新阿武川発電所

ア 発電所

新阿武川発電所は、阿武川総合開発事業の一環として、昭和50年に建設したものであり、阿武川ダム直下で最大出力19,500kWのピーク発電を行っている。

所在地	萩市川上字なんかけ 2344 番地 1
運転開始年月	昭和 50 年 3 月
発電所型式	ダム式
出力	最大 19,500kW 常時 4,500kW 常時尖頭 5,900kW
使用水量	最大 30.00 m ³ /s 常時 12.56 m ³ /s 常時尖頭 22.20 m ³ /s
有効落差	最大 76.75m 常時 58.09m 常時尖頭 37.29m
発電機	三相交流同期発電機 容量 22,000kVA 1 台 発電機電圧 10,500V
水車	立軸フランシス水車 20,400kW 1 台
主要変圧器	屋外用三相自冷式内鉄窒素封入型 容量 22,000kVA 1 台 1 次電圧 10,500V 2 次電圧 66,000V
ダム	阿武川ダム（治水・正常流量の確保・発電） 重力アーチ式コンクリートダム 堤高 95.0m 堤長 286.0m 堤体積 426,500 m ³ 総貯水容量 153,500 千 m ³ 発電有効容量 113,000 千 m ³
取水設備 （表面取水）	堤体直結矩形型取水塔 多段式ローラーゲート（3段）
水圧鉄管	長さ 76.7m 内径 3.3m 1 条

阿武川ダム、発電所平面図

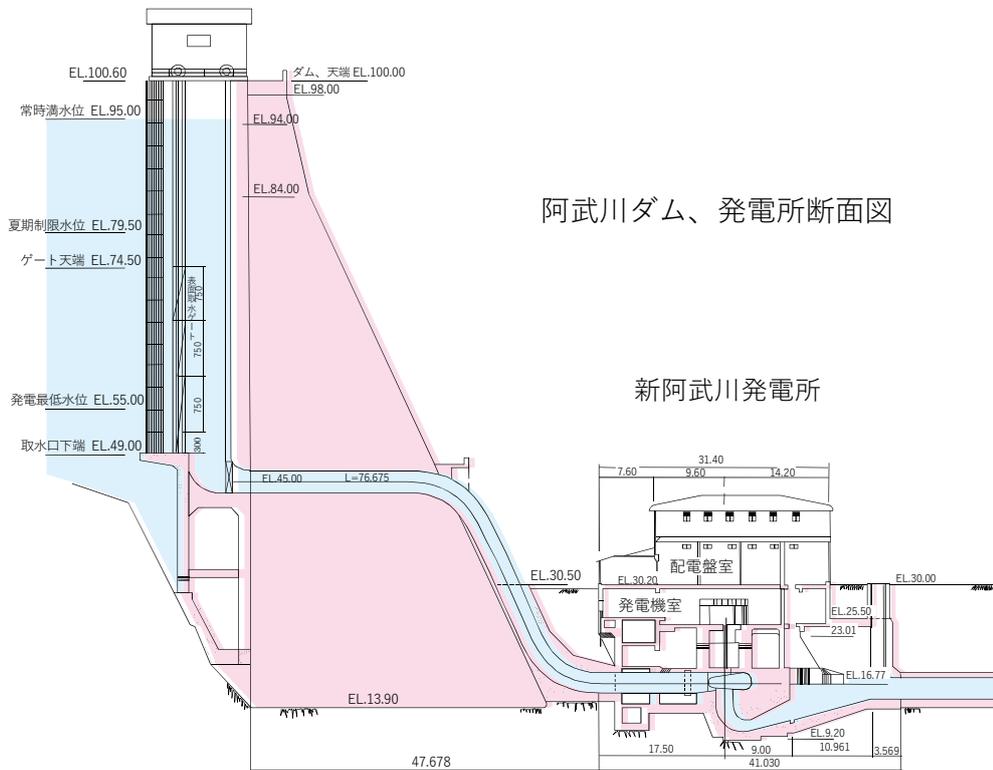
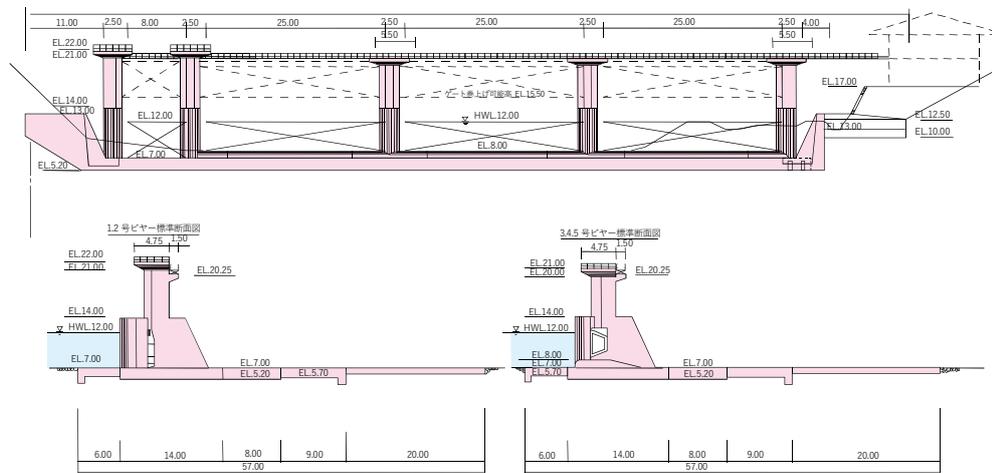


あいはら
イ 相原ダム

相原（逆調整池）では、新阿武川発電所のピーク流量を平滑し、流量調整ゲートにより下流に一定放流を行っている。

所在地	萩市川上案座原
ダム	相原ダム フローティングタイプコンクリートダム 堤高 7.8m 堤長 110.5m 総貯水容量 476 千 m^3
洪水吐ゲート	ローラーゲート 高さ 4.0m 巾 25.0m 3門
流量調整ゲート	ローラーゲート 高さ 5.0m 巾 8.0m 1門

相原ダム断面図



阿武川ダム、発電所断面図

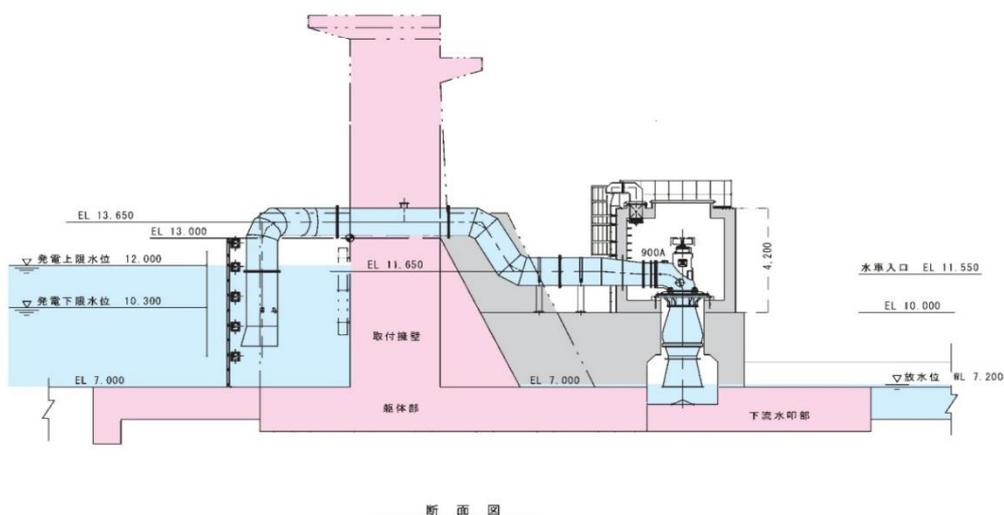
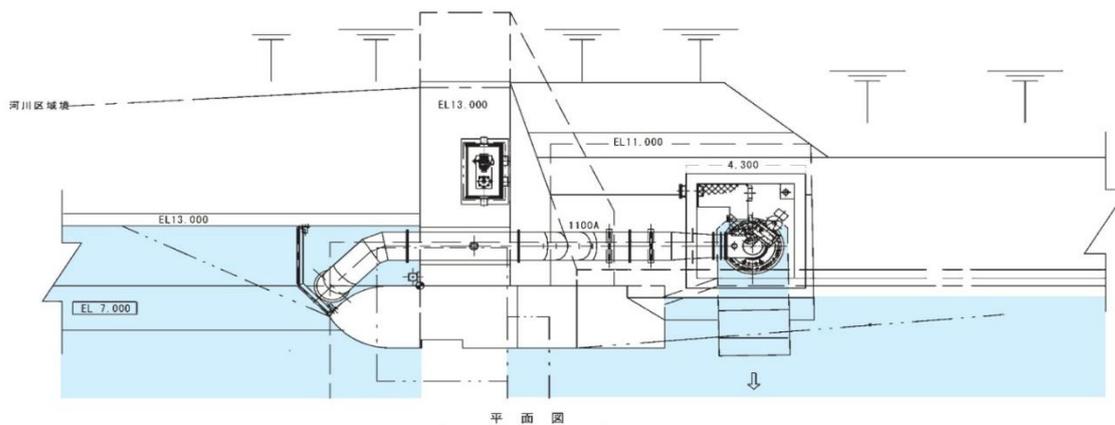
新阿武川発電所

(12) ^{あいはら}相原発電所

相原発電所は、相原ダムの未利用落差を有効利用するために、平成26年に建設したものであり、全国的にも珍しいサイフォン式取水を採用して相原ダムの直下で最大出力82kWの発電を行っている。

なお、当発電所は、平成26年5月に「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」に基づき、再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）の対象発電所となっている。

所在地	萩市川上字堂河内 801 番地先
運転開始年月	平成26年5月
発電所型式	ダム式
出力	最大 82kW
使用水量	最大 3.20 m ³ /s
有効落差	最大 3.87m
発電機	三相交流誘導発電機 1台
水車	立軸斜流ポンプ逆転水車 1台
ダム	相原ダム



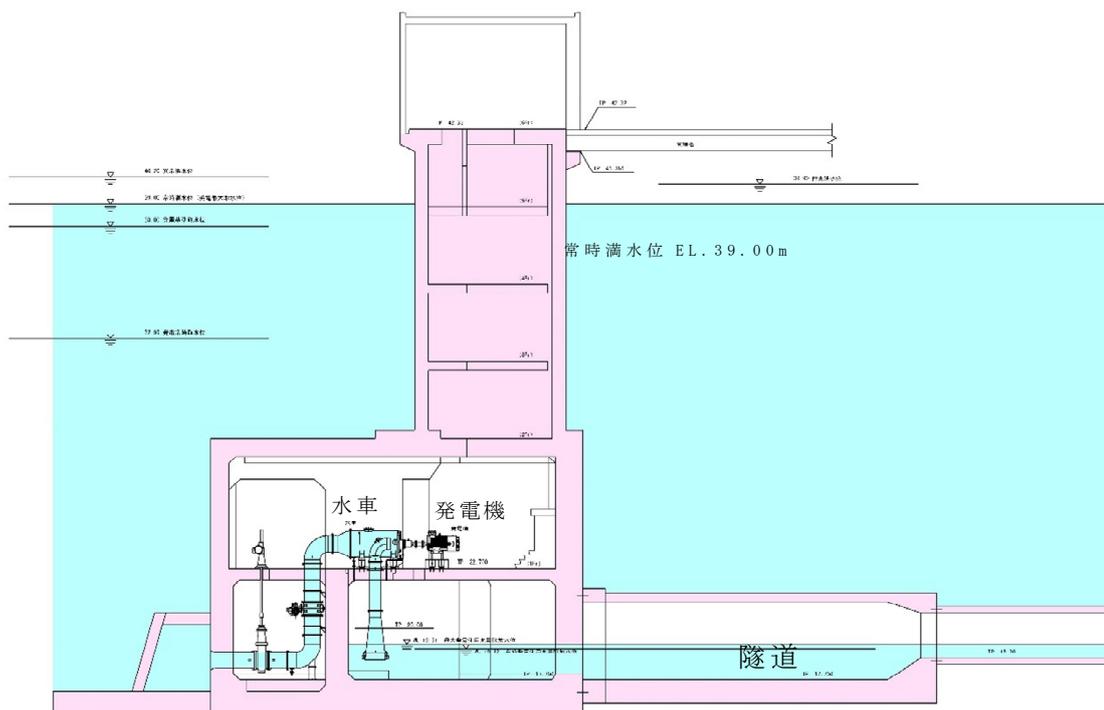
(13) 宇部丸山発電所

宇部丸山発電所は、宇部丸山ダムから取水している既得上水及び工業用水の未利用落差を有効活用するために、平成 28 年に建設したものであり、既設の工業用水施設を改造して水車発電機を設置したもので、最大出力 130kW の発電を行っている。

なお、当発電所は、平成 28 年 4 月に「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」に基づき、再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）の対象発電所となっている。

所在地	宇部市大字瓜生野字丸山 146 番地先
運転開始年月	平成 28 年 4 月
発電所型式	ダム式
出力	最大 130kW
使用水量	最大 0.941 m ³ /s（既得水利権に従属して発電） （既得水利権の内訳 上水 0.2 m ³ /s、工水 0.741 m ³ /s）
有効落差	最大 19.08m
発電機	三相交流誘導発電機 1 台
水車	横軸フランシス水車 1 台
ダム	宇部丸山ダム（上水・工水） 重力式コンクリートダム 堤高 32.0m 堤長 211.4m 堤体積 69,000 m ³ 総貯水容量 4,500 千 m ³

宇部丸山ダム取水塔断面図



IV 工業用水道事業の概要

1 施設の総括表

(令和7年4月1日現在)

(単位：m³/日)

工業用水道名	給水区域	計画給水量	給水開始 年 月	給水能力	摘 要
(1)小瀬川 工業用水道	岩国市 和木町	148,800	S35.10	148,800	
(2)小瀬川第2期 工業用水道	柳井市	5,600	H12.4	5,600	
(3)生見川 工業用水道	岩国市	118,800	S63.4	32,500	一部給水
(4)島田川 工業用水道	下松市 周南市	14,100	R2.7	14,100	
(5)末武川 工業用水道	周南市	8,700	H5.1	8,700	(29,000)
(6)周南 工業用水道	下松市 周南市	436,800	S41.7	436,800	(39,400)
(7)向道・川上 工業用水道	周南市	168,000	S15.10	168,000	
(8)富田・夜市川 工業用水道	周南市	94,200	S56.8	94,200	(19,700)
(9)佐波川 工業用水道	防府市	114,100	S42.4	114,100	
(10)佐波川第2期 工業用水道	防府市	80,900	S60.4	40,450	一部給水
(11)厚東川 工業用水道	宇部市 山陽小野田市	368,000	S25.3	368,000	
(12)厚東川第2期 工業用水道	宇部市 山陽小野田市	59,500	S54.10	59,500	(16,800)
(13)厚狭川 工業用水道	宇部市 美祢市 山陽小野田市	52,000	S57.11	52,000	
(14)木屋川 工業用水道	下関市	180,000	S21.10	180,000	
(15)木屋川第2期 工業用水道	下関市	22,000	H3.4	6,800	一部給水 (30,000)
計		1,871,500		1,729,550	(134,900)

(注)「摘要」欄の()は、共同開発に係る上水の水量を示す

2 各施設

(1) 小瀬川工業用水道

和木町地内旧陸軍燃料廠跡地へ進出した石油コンビナート等への用水対策として小瀬川を水源とし、昭和35年度から自流水110,400m³/日による給水を開始し、さらに昭和39年に建設された小瀬川ダムを水源とし、新たに38,400m³/日の取水が可能となったため、昭和43年～昭和44年に増設工事を行い、併せて148,800m³/日の給水能力を有している。

ア 貯水施設（小瀬川ダム）

- 型 式 重力式コンクリートダム
- 堤 高 49.0m
- 堤 頂 長 158.0m
- 堤 体 積 96,400m³
- 有効貯水量 9,900千m³（うち工業用水容量3,400千m³）
- 着 工 昭和37年4月
- 竣 工 昭和40年3月

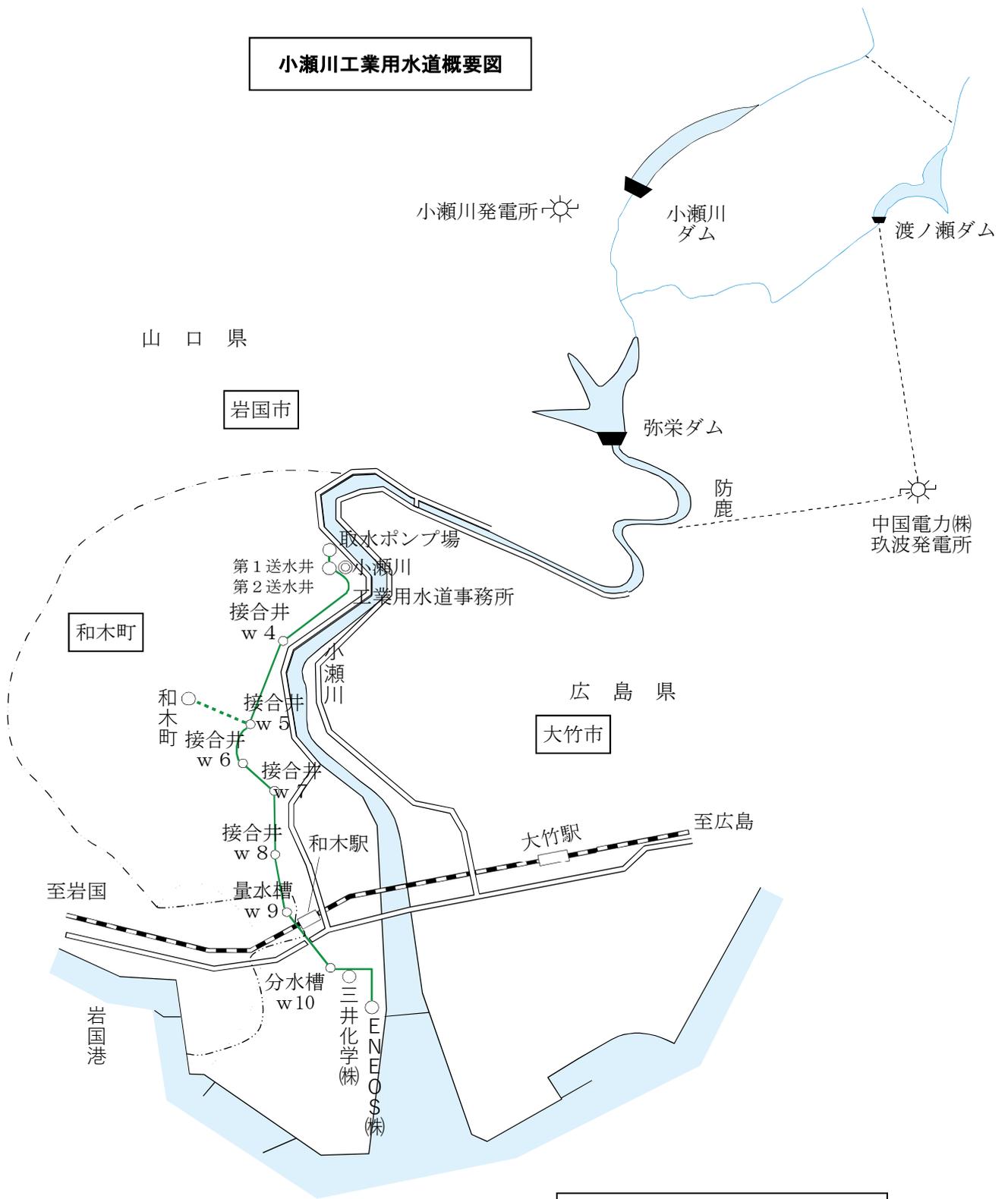
イ 取水施設

- 集 水 管 (φ1,200mm～φ1,500mm) L=756m
- 導 水 管 (φ1,500mm) L= 23m
- ゲ ー ト 2基
- 揚 水 施 設 ポンプ90kW 4台
- 着 工 昭和34年4月 (当初) 昭和43年4月 (増量)
- 竣 工 昭和36年3月 (当初) 昭和44年12月 (増量)

ウ 送配水施設

- 隧 道 (W=1.8m、H=1.8m) L=1,413m
- 送 配 水 管 (φ700mm～φ1,350mm) L=2,640m
- 量水・制水設備 流量計 4基 制御弁 2基 ゲート 6基
- 着工及び竣工 イに同じ

小瀬川工業用水道概要図



凡	例
	小瀬川工業用水道
	他 社 所 管
	隧 道

(2) 小瀬川^{おせがわ}第2期工業用水道

柳井地域の用水対策として、柳井地域広域水道企業団と共同で平成12年に建設されたもので、平成3年に完成した弥栄ダムを水源として、5,600m³/日の給水能力を有している。

ア 貯水施設（弥栄ダム）

[共同事業：治水69.3%、中電0.7%、広島（上・工水）15.0%、山口（上水）8.3%、山口（工水）6.7%]

- 型式 重力式コンクリートダム
- 堤高 120.0m
- 堤頂長 540.0m
- 堤体積 1,550,000m³
- 有効貯水量 106,000千m³（うち山口県分工業用水容量7,270千m³）

イ 取水施設（共同事業）

- 型式 直線多孔式バルブ型（斜樋）
- 斜長 110.0m

ウ 導水施設（共同事業）

- 隧道 (W=2.0m×H=2.0m) L=20,680m
- 導水管 (φ1,200mm) L=2,222m
- 水管橋 1橋
- 減勢工 1式

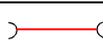
エ 配水施設（共同事業）

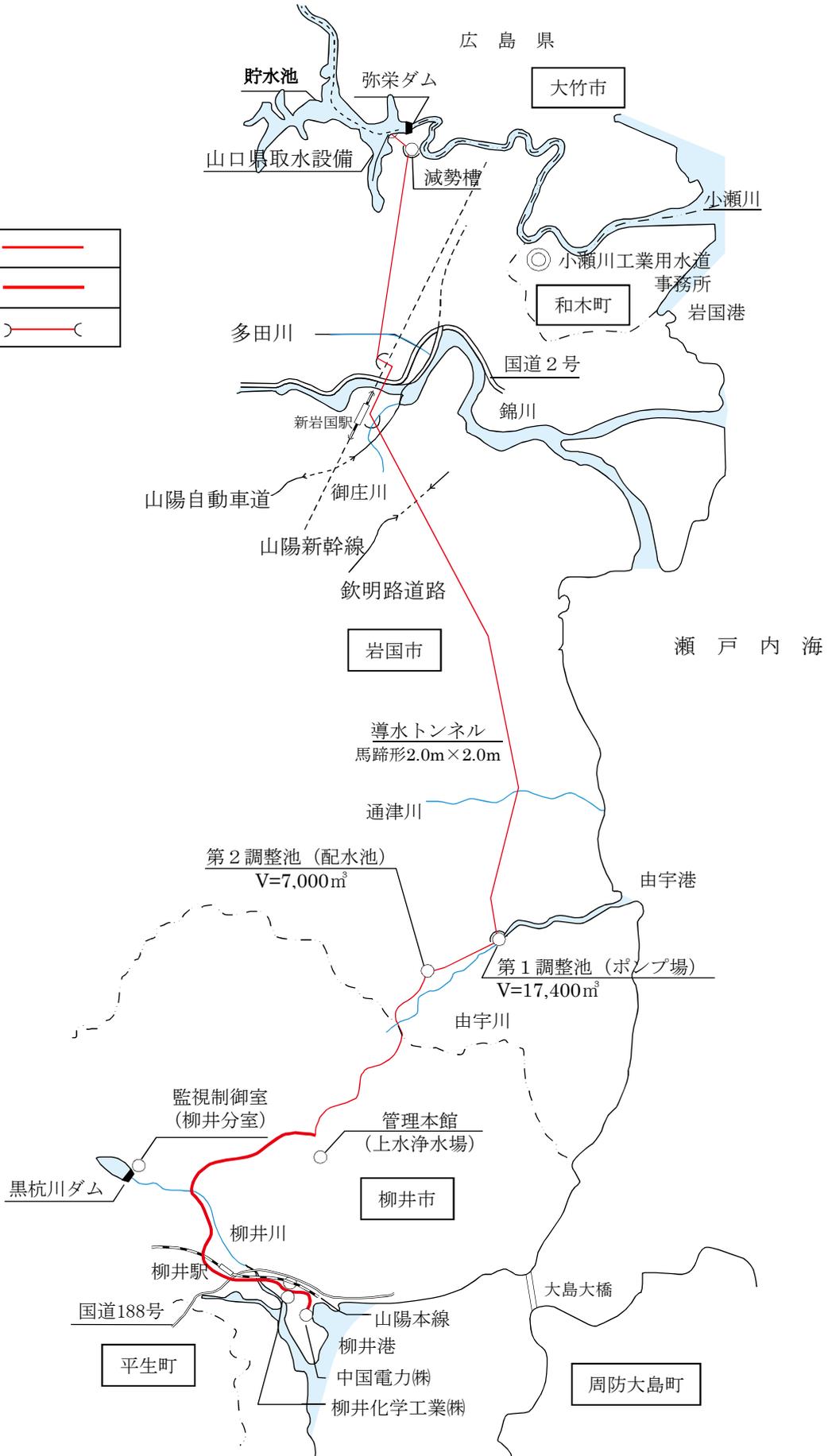
- 配水管 (φ700mm～φ900mm) L=8,679m
- ポンプ場 1ヶ所
- 調整池 2ヶ所
- 管理本館

オ 配水施設（専用事業）

- 配水管 (φ200mm～φ400mm) L=17,143m（旧柳井川工業用水道を含む）
- 水管橋 2橋
- 監視制御室

小瀬川第2期工業用水道概要図

共同事業	
専用事業	
隧道	



(3) 生見川工業用水道

岩国地区の水需要増に対処して、昭和60年に生見川総合開発事業により建設された生見川ダムを水源とし、このダム放流水及び自流水を下流で取水し、118,800m³/日の給水を行うもので、昭和63年度から給水を開始し、現在32,500m³/日の給水能力を有している。

ア 貯水施設（生見川ダム）

- 型 式 重力式コンクリートダム
- 堤 高 90.0m
- 堤 頂 長 215.0m
- 堤 体 積 360,870m³
- 有効貯水量 29,300千m³（うち工業用水容量12,700千m³）

イ 取水施設

- ゲート1式（昭和63年3月完成）
- 導水管（φ900mm） L=66m
- 取水ポンプ 4台（計画）

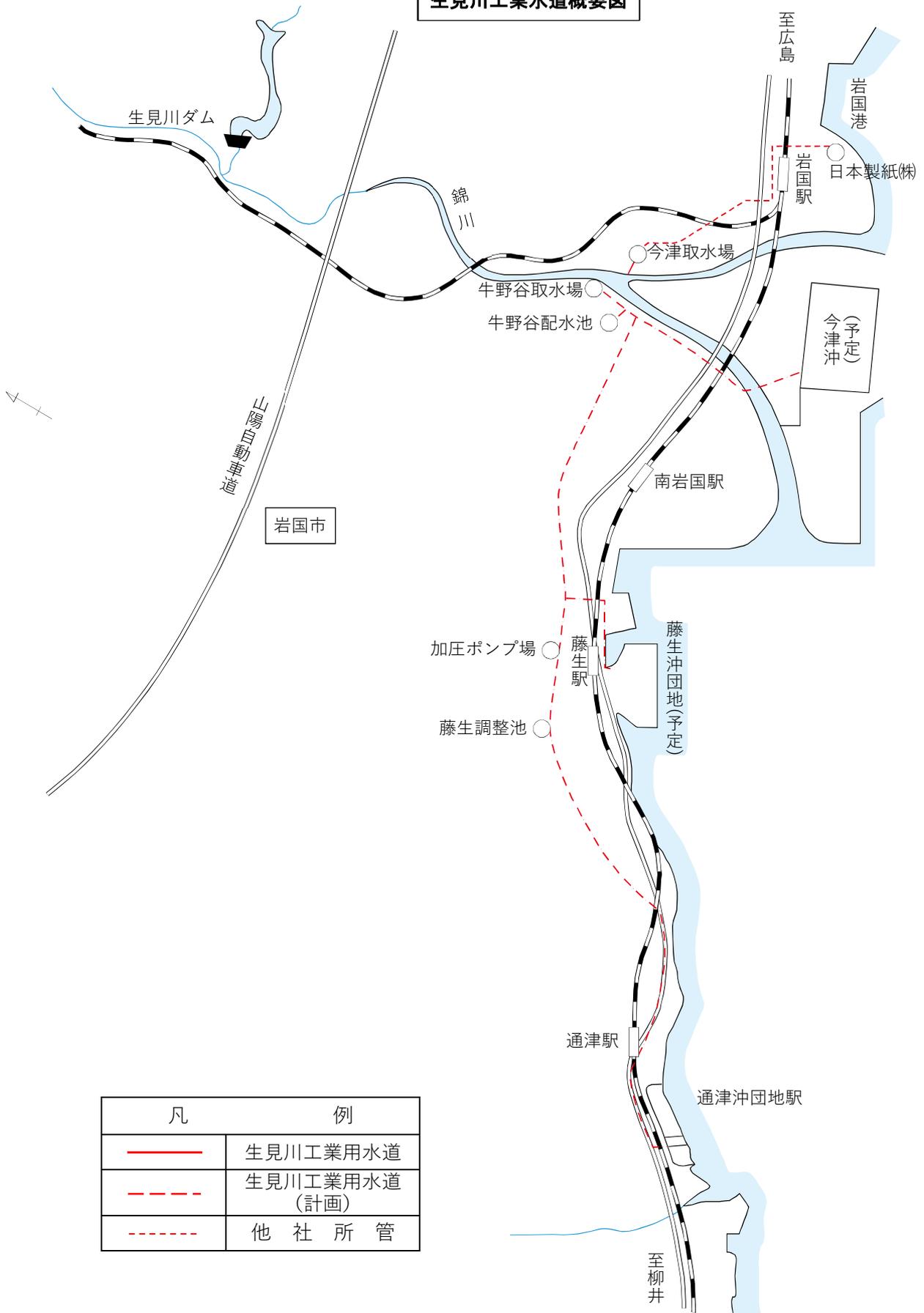
ウ 送水施設……………計画

- 送水管 L=1,750m

エ 配水施設……………計画

- 配水管 L=16,720m

生見川工業水道概要図



凡	例
	生見川工業用水道
	生見川工業用水道 (計画)
	他社所管

(4) しまたがわ 島田川工業用水道

周南地域における慢性的な水不足に対応するため、光市が上水道から工業用水に転用した中山川ダムの水利権を利用して、周南地区に対して日量14,100m³/日を供給するもので、令和2年7月から給水を開始している。

ア 取水施設（光市下林取水場）

- 取水ポンプ 185kW 3台

イ 導水施設

- 隧 道 (W=1.6m×H=2.5m) L=1,684m
- 導水管 (φ350～φ450mm) L=8,893m
- 水管橋 2ヶ所

(5) ^{すえたけがわ}末武川工業用水道

下松・周南地区の用水対策として、両市の上水と共同で建設したもので、平成4年に末武川総合開発事業により建設された末武川ダムを水源とし、8,700m³/日の給水能力を有している。

ア 貯水施設（末武川ダム）

（共同事業：治水43.4%、工水12.9%、上水43.2%、電気0.5%）

- 形 式 中央コア型ロックフィルダム
- 堤 高 89.5m
- 堤 頂 長 275.0m
- 堤 体 積 2,723,000千m³
- 有効貯水量 18,770千m³（うち工業用水容量2,620千m³）
- 着 工 昭和49年4月
- 竣 工 平成4年3月

イ 導水施設（共同事業）

- 隧 道 (W=1.8m×H=1.8m) L=1,000m
- 導 水 管 (φ800mm) L=3,817m

ウ 送水施設（共同事業）

- 送 水 管 (φ400mm～φ700mm) L=4,820m
- 水 管 橋 3ヶ所

エ 送水施設（専用事業）

- 送 水 管 (φ400mm) L=354m

(6) 周南工業用水道

周南地域は、戦後、徳山海軍燃料廠跡地へ石油コンビナートが進出したのをはじめ、多くの企業が立地し、「工特地域」の指定と相まって、一大工業地帯となり、水需要も急速に増大した。この対策として、錦川第2期利水計画による錦川総合開発事業により昭和41年に建設された菅野ダムを水源とし、416,800 m^3 /日を給水、さらに、平成15年度からは、下松市工業用水からの卸供給を受け、新たに20,000 m^3 /日を確保したことにより、現在436,800 m^3 /日の給水能力を有している。

ア 貯水施設（菅野ダム）

- 型式 重力式コンクリートダム
- 堤高 87.0m
- 堤頂長 272.0m
- 堤体積 384,000 m^3
- 有効貯水量 91,200千 m^3 （うち工業用水容量83,300千 m^3 ）
- 着工 昭和34年4月
- 竣工 昭和41年3月

イ 取水導水施設

- 取水施設
（金峰取水口～水越ダム） 隧道 (W=1.6m×H=1.8m) L=2,731m
- 導水施設
（水越ダム～徳山分水池） 隧道 (W=2.3m×H=2.3m) L=15,112m

ウ 送配水施設

- 送水施設
（徳山分水池～東配水槽） 隧道 (W=1.6m×H=1.7m) L=747m
（徳山分水池～西配水槽） 隧道 (W=2.2m×H=1.9m) L=2,837m
（西配水槽～川崎分水場） 送水管 (ϕ 800mm～ ϕ 1,000mm) L=2,215m
（西配水槽～川崎分水場） 送水ポンプ 110kW 2台 55kW 1台
- 配水施設
（東・西配水槽～各工場） 配水管 (ϕ 350mm～ ϕ 1,500mm) L=36,714m
水管橋11橋

(7) 向道・川上工業用水道

周南地域は、明治38年の徳山海軍燃料廠の設置以後、重化学工業が立地し、その用水対策として、錦川第1期利水事業により昭和15年に建設された向道ダムを水源とし、120,000m³/日を給水、さらに、戦後、石油コンビナート等の進出に伴う水需要増に応えるため、昭和37年に、富田川総合開発事業により建設された川上ダムを水源とし、新たに48,000m³/日を確保したことにより、現在168,000m³/日の給水能力を有している。

ア 貯水施設

◎ 向道ダム

- 型 式 重力式コンクリートダム
- 堤 高 43.3m
- 堤 頂 長 120.9m
- 堤 体 積 42,400m³
- 有効貯水量 6,863千m³
- 着 工 昭和13年3月
- 竣 工 昭和15年10月

◎ 川上ダム

- 型 式 重力式コンクリートダム
- 堤 高 63.0m
- 堤 頂 長 187.2m
- 堤 体 積 162,700m³
- 有効貯水量 13,500千m³ (利水容量12,000千m³ : 富田・夜市川分を含む)
- 着 工 昭和33年8月
- 竣 工 昭和55年3月 (旧川上ダム 昭和37年3月)

イ 配水施設

- 間上逆調整池～川崎分水場
隧道・暗渠 (W=1.5m×H=1.75m) L=3,614m、
送水管 (φ1,200m) L=655m
- 向道ダム～間上逆調整池 (隧道) (中国電力株の施設) L=4,875m
- 着 工 昭和13年3月
- 竣 工 昭和15年10月

(8) 富田・夜市川工業用水道

昭和40年代、高度成長期における周南地域のめざましい工業の発展により水需要も大幅に増加が予測されたため、この抜本的対策として、既設川上ダムの嵩上げ及び隣接する夜市川からの取水、さらに、佐波川支川に建設された島地川ダムからの分水等効率的水開発を行い、昭和56年からこれらの相互運用による給水を順次開始し、現在では94,200m³/日の給水能力を有している。

ア 貯水施設

◎ 川上ダム嵩上

- 型 式 重力式コンクリートダム
- 堤 高 63.0m (+16.5m)
- 堤 頂 長 187.2m
- 堤 体 積 162,700m³ (+107.729m³)
- 有効貯水量 13,500千m³ (利水容量12,000千m³: 川上分を含む。)

◎ 島地川ダム

[治水46.4%、工水(富田夜市川13.5%、佐波川第2期26.2%) 上水13.9%]

- 型 式 重力式コンクリートダム
- 堤 高 89.0m
- 堤 頂 長 240.0m
- 堤 体 積 317,000m³
- 有効貯水量 19,600千m³ (うち工業用水容量3,000千m³)
- 着 工 昭和49年4月
- 竣 工 昭和56年3月

イ 導水施設

- (和田取水場～川上ダム)
隧道 (W=2.5m×H2.45m) L=5,520m

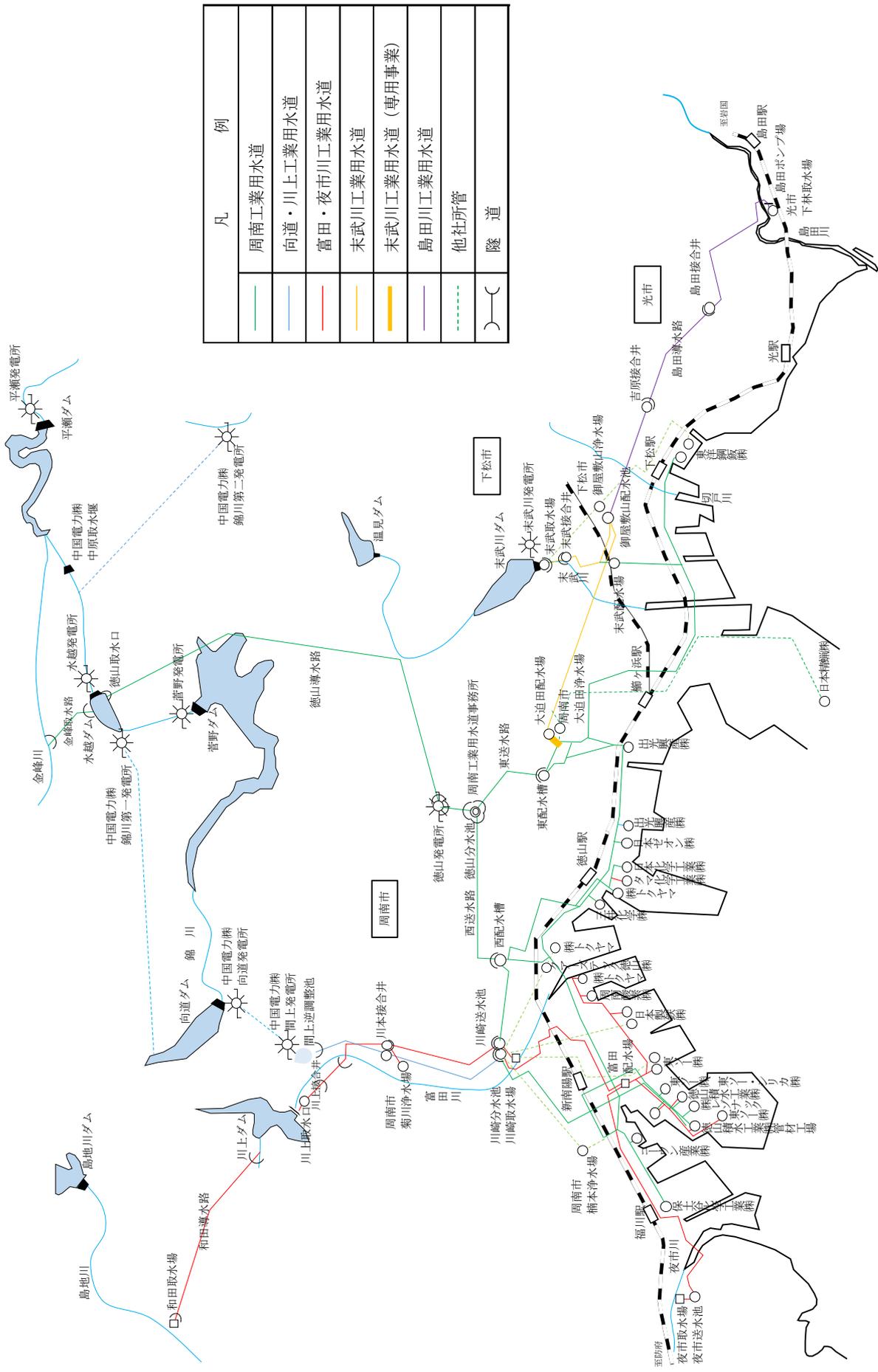
ウ 送配水施設

- 送水施設
富田川系送水路 (川上ダム～富田配水場)
隧道 (W=1.48m×H=1.75) L=410m、(W=2.0m×H=2.0m) L=2,272m
送水管 (φ900mm～φ1,000mm) L=5,554m
水管橋 1ヶ所
夜市川系送水路 (夜市取水場～富田配水場)
送水管 (φ800mm～φ900mm) L=5,388m
水管橋 2ヶ所
- 配水施設
配水管 (φ450mm～φ900mm) L=6,520m

エ 取水施設

- 取水ポンプ 132kW 3台 (川崎取水場)
- 取水ポンプ 250kW 3台 (夜市取水場)

周南地区各工業用水道概要図



凡	例
	周南工業用水道
	向道・川上工業用水道
	富田・夜市川工業用水道
	未武川工業用水道
	未武川工業用水道 (専用事業)
	島田川工業用水道
	他社所管
	隧道

(9) 佐波川工業用水道

昭和26年のルース台風による大水害を契機に、昭和27年佐波川防災ダム建設に着手したが、将来防府地区に企業進出も予測されたことから、工業用水、電力を確保するため各事業が参加、佐波川総合開発事業として昭和31年佐波川ダムを完成させ、これを水源として下流で取水し、114,100 m^3 /日の給水能力を有している。

ア 貯水施設（佐波川ダム）

- 形 式 重力式コンクリートダム
- 堤 高 54.0m
- 堤 頂 長 156.00m
- 堤 体 積 100,000 m^3
- 有効貯水量 21,400千 m^3 （うち工業用水容量13,200千 m^3 ）
- 着 工 昭和27年7月
- 竣 工 昭和31年3月

イ 取水施設・送水施設

- 第一取水口（防府市古祖原）
取水施設 $\phi 1,000\sim 1,200\text{mm}$ L=682m
送水施設 ポンプ 30kW 2台、110kW 3台、75kW 2台
- 第二取水口（防府市古祖原）
取水施設 $\phi 1,200\text{mm}$ L=542m
送水施設 ポンプ 55kW 2台、22kW 4台
- 送配施設
送配水管（ $\phi 100\text{mm}\sim \phi 1,200\text{mm}$ ）L=21,160m
隧道（ $W=1.7\text{m}\times H=1.75\text{m}$ ）L=890m
水管橋 7橋
- 取水施設（白井谷川）
取水堰 $W=16.8\text{m}$ $H=4.0\text{m}$
隧道（ $H=1.8\text{m}\times W=1.6\text{m}$ ）L=941.6
- 着 工 昭和42年3月（当初） 昭和45年11月（増量）
- 竣 工 昭和42年10月（当初） 昭和49年3月（増量）

(10) 佐波川^{まがわ}第2期工業用水道

防府市の瀬戸内沿岸、旧塩田跡地への企業進出に伴う水需要の増大が予測されたため、国土交通省（旧建設省）が佐波川支川に建設した島地川ダムに工業用水の使用権を設定し、この開発水及び自流水を水源として、下流で取水し、80,900m³/日の給水を行うもので、昭和60年から給水を開始し、現在40,450m³/日の給水能力を有している。

ア 貯水施設（島地川ダム）

〔治水46.4%、工水（佐波川第2期26.2%、富田夜市川13.5%）上水13.9%〕

- 形 式 重力式コンクリートダム
- 堤 高 89.0m
- 堤 頂 長 240.0m
- 堤 体 積 317,000m³
- 有効貯水量 19,600千m³（うち工業用水容量5,800千m³）
- 着 工 昭和49年4月
- 竣 工 昭和56年3月

イ 取水施設

- 取水ポンプ 450kW 2台

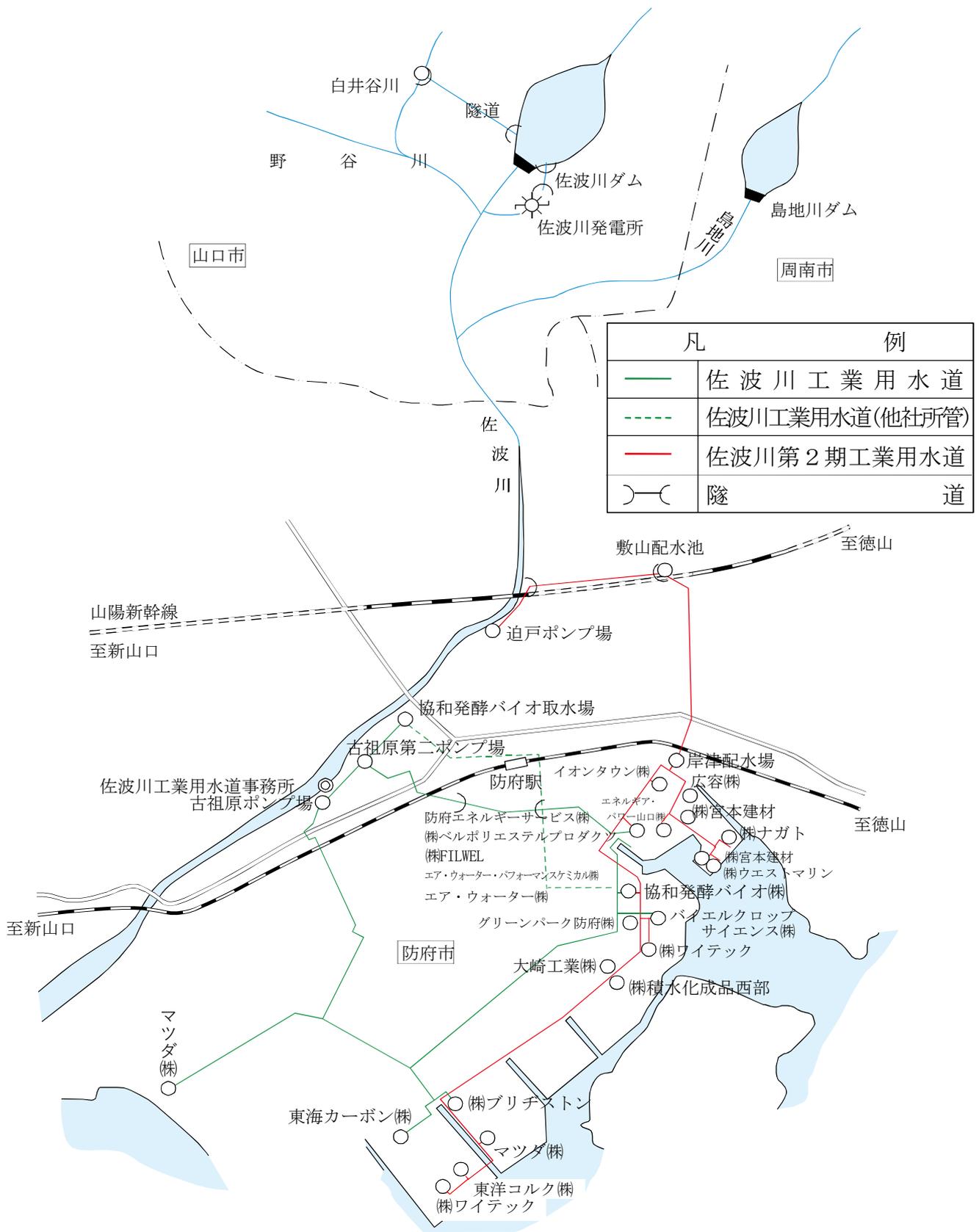
ウ 送水施設

- 送水管 (φ800mm) L= 793m
- 隧道 (W=1.8m×H=2.0m) L=1,408m
- 暗 渠 (W=1.8m×H=2.0m) L= 40m

エ 配水施設

- 配水管 (φ100mm～φ800mm) L=15,560m
- 水管橋 6橋

佐波川、佐波川第2期工業用水道概要図



(11) 厚東川工業用水道

昭和14年の大渇水を契機に、宇部小野田地区の用水について対策が検討され、その恒久対策として、昭和15年厚東川利水事業に着手、戦時中を経て昭和25年に完成した厚東川ダムを水源として368,000m³/日の給水能力を有している。

ア 貯水施設（厚東川ダム）

- 形 式 重力式コンクリートダム
- 堤 高 38.8m
- 堤 頂 長 162.0m
- 堤 体 積 62,160m³
- 有効貯水量 23,042千m³（うち工業用水容量22,541千m³）
- 着 工 昭和15年11月
- 竣 工 昭和25年3月

イ 取水施設

- 取水ポンプ 350kW 3台（末信ポンプ場）

ウ 送水施設

- 隧 道 (W=1.67m×H=1.9m) L=3,817m、(W=2.0m×H=2.0m) L=11,900m
- 水路橋 1橋
- 暗 渠 L=1,382m
- 送水管 (φ1500mm～φ1800mm) L=1,693m
- 送水ポンプ 90kW 1台
- 着 工 昭和15年11月（当初） 昭和36年12月（増量）
- 竣 工 昭和24年3月（当初） 昭和38年3月（増量）

エ 発電施設（二俣瀬発電所）

- 使用開始 昭和56年6月
- 発電所型式 ダム式
- 出 力 最大 600kW 常時 230kW
- 使用水量 最大 4.36m³/s 常時 4.28m³/s
- 有効落差 最大時 17.336m 常時7.89m
- 年間可能発生電力量 4,000MWh
- 水 車 横軸円筒固定羽根プロペラ水車 690kW 1台
- 発 電 機 三相誘導発電機 650kW 1台

(12) 厚東川^{ことうがわ}第2期工業用水道

宇部小野田地区の水需要に応えるため、宇部・山陽小野田両市の上水と共同で、既設厚東川ダムに隣接して、昭和54年に宇部丸山ダムを建設し、底部をトンネルで連結することにより効率的かつ高度な水開発を行ったもので、59,500m³/日の給水能力を有している。

ア 貯水施設（宇部丸山ダム）

- 形 式 重力式コンクリートダム
- 堤 高 32.0m
- 堤 頂 長 211.4m
- 堤 体 積 69,000m³
- 有効貯水量 4,000千m³（うち工業用水容量3,119千m³）
- 着 工 昭和46年4月
- 竣 工 昭和54年3月

イ 送水施設（共同事業）

- 隧 道 (W=4.0m×H=4.0m) L=1,606m、(W=2.0m×H2.0m) L=5,813m
- 送水管 (φ1,500mm～φ4,000mm) L=1,097m
- 送水ポンプ 340kW 3台

ウ 配水施設（一部専用事業）

- (有帆配水池～各企業) 配水管 (φ150mm～φ1,100mm) L=26,239m
- (平原配水槽～各企業) 配水管 (φ350mm～φ900mm) L=13,468m

(13) 厚狭川工業用水道

美祢市及び旧山陽町等の産炭地域振興対策により進出する企業の用水確保のため産炭地域小水系用水開発事業として昭和56年に美祢市地内に厚狭川を水源とした揚水方式の美祢ダムを建設し、さらに昭和60年に山陽取水場を建設したことにより、自流水取水と併せ52,000m³/日の給水能力を有している。

ア 貯水施設（美祢ダム）

- 型式 重力式コンクリートダム
- 堤高 32.0m
- 堤頂長 160.5m
- 堤体積 46,500m³
- 有効貯水量 1,860千m³（うち工業用水容量1,860千m³）
- 着工 昭和47年4月
- 竣工 昭和56年12月

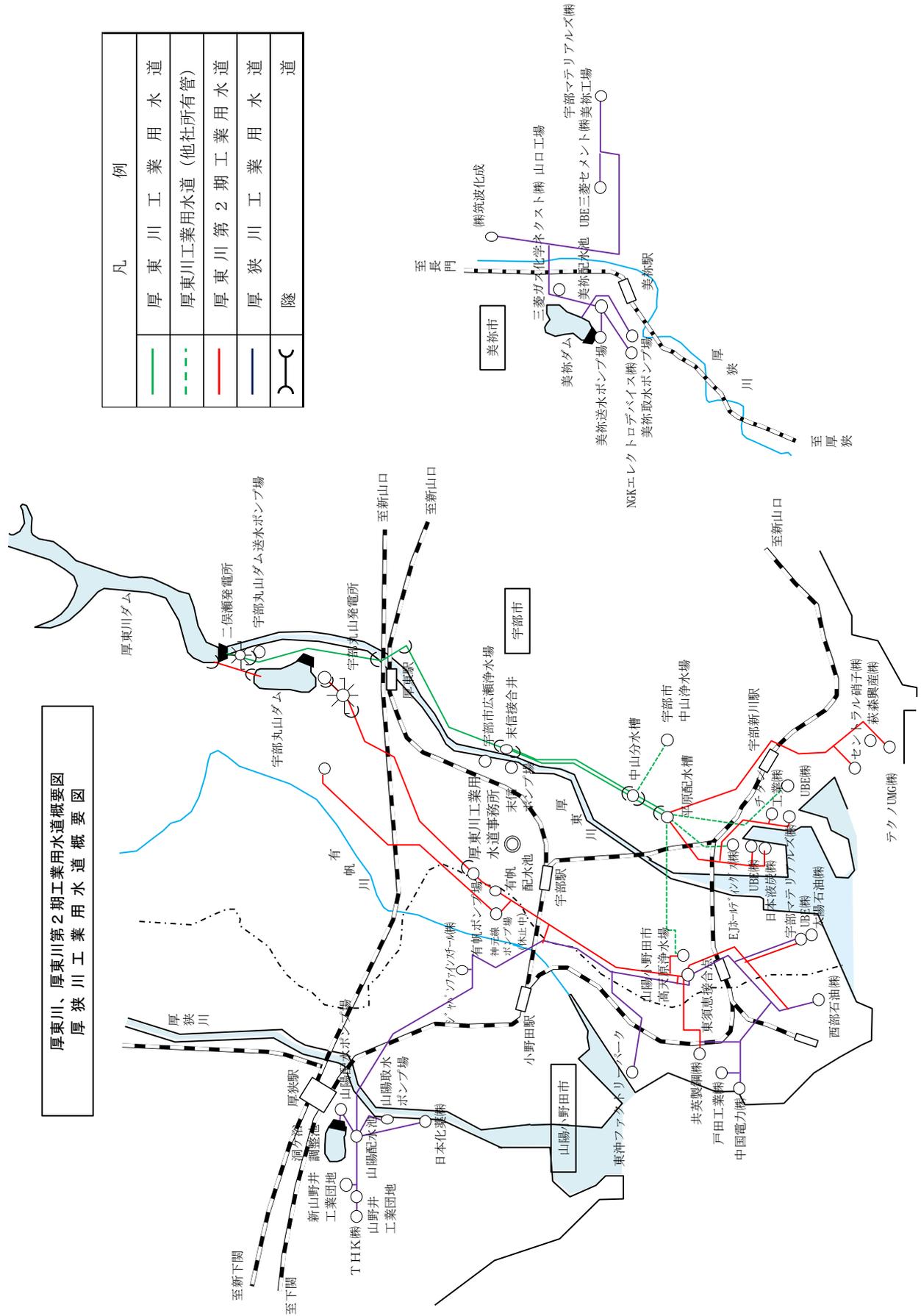
イ 美祢地区 取水、送配水施設

- 取水場 1ヶ所 取水ポンプ 110kW×3台 240kW×1台
- 送水ポンプ場 1ヶ所 取水ポンプ 75kW×1台 65kW×2台
- 送配水管 (φ100mm～φ700mm) L=7,846m

ウ 山陽地区 取水、送配水施設

- 取水場 1ヶ所 取水ポンプ 250kW×3台
- 配水ポンプ場 1ヶ所 配水ポンプ 200kW×2台
- 送配水管 (φ100mm～φ900mm) L=33,945m

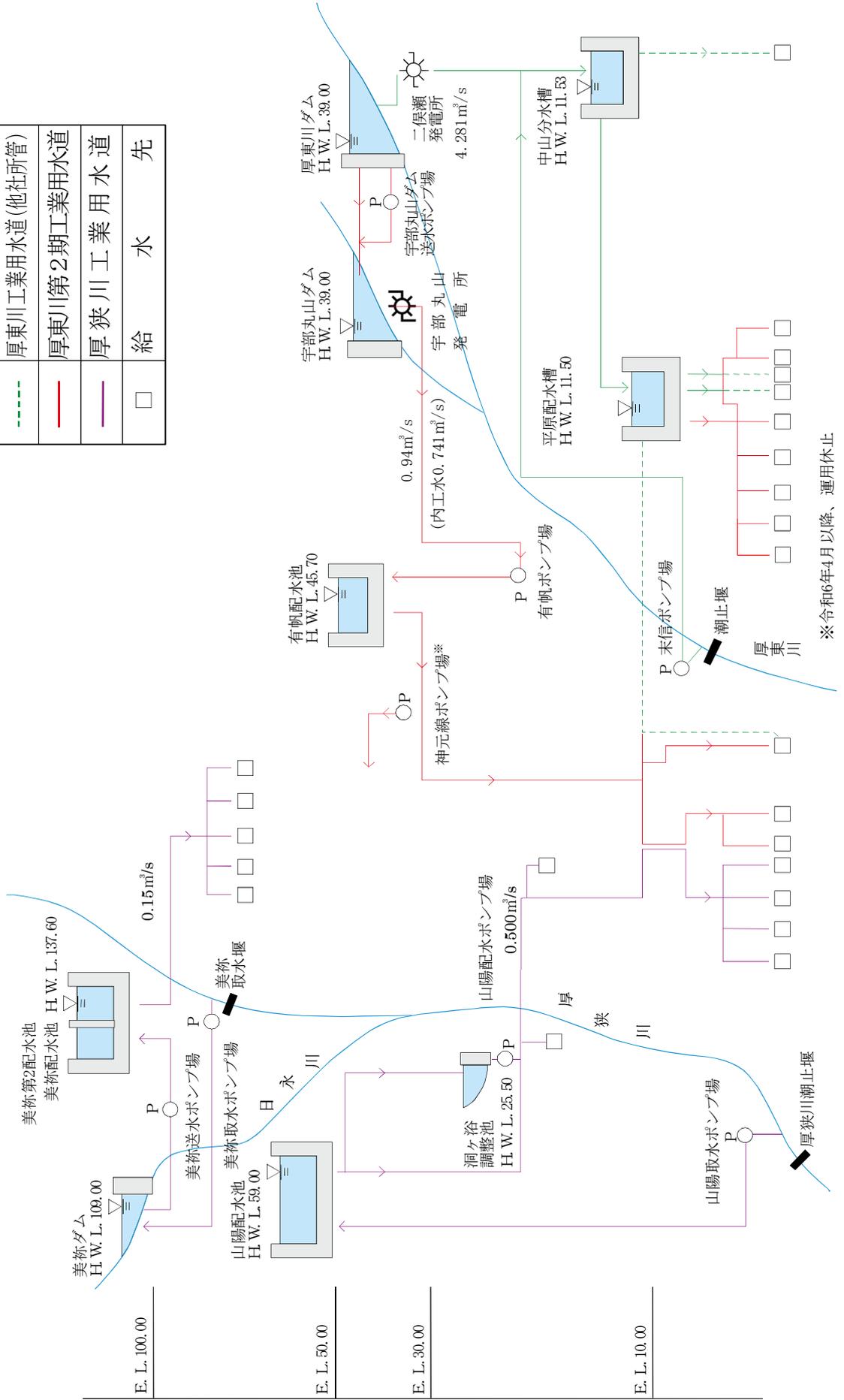
厚東川、厚東川第2期工業用水道概要図
厚狭川工業用水道概要図



凡 例	
	厚東川工業用水道
	厚東川工業用水道 (他社所有管)
	厚東川第2期工業用水道
	厚狭川工業用水道
	隧 道

厚東川、厚東川第2期、厚狭川工業用水道配水系統図

凡	例
—	厚東川工業用水道
- - -	厚東川工業用水道(他社所管)
—	厚東川第2期工業用水道
—	厚狭川工業用水道
□	給水先



※令和6年4月以降、運用休止

(14) 木屋川工業用水道

昭和10年代の軍需景気により、下関市長府地区等へ工場が進出する際、下関市の発展に伴う水需要対策として、昭和15年木屋川利水事業に着手。戦後に至り、木屋川総合開発事業として昭和30年に完成した木屋川ダムを水源として、下流の湯の原ダムで取水するもので180,000m³/日の給水能力を有している。

ア 貯水施設（木屋川ダム）

- 型式 重力式コンクリートダム
- 堤高 41.0m
- 堤頂長 174.3m
- 堤体積 84,500m³
- 有効貯水量 21,080千m³（うち上工水容量16,070千m³）
- 着工 昭和15年8月
- 竣工 昭和30年3月

イ 取水施設（湯の原ダム）

- 型式 重力式コンクリートダム
- 堤高 18.5m
- 堤頂長 212.9m
- 堤体積 79,000m³

ウ 送配水施設（湯の原～長府町）

- 取水口 ～第一分水槽 (W=1.84m×H=2.24m) L=8,810m
- 第一分水槽 ～第二分水槽 (W=1.54m×H=1.87m) L=4,907m
- 第二分水槽 ～第三分水槽 (W=1.5m×H=1.87m) L=1,145m
- 第三分水槽 ～第四分水槽 (W=1.35m×H=1.5m) L=1,085m
- 第四分水槽 ～第五分水槽 (W=1.2m×H=1.5m) L=952m
- 総延長 L=16,899m

エ 送配水施設拡張工事（着工：昭和44年3月、竣工：昭和47年3月）

- 第1号サイフォン ○第2号サイフォン ○第3号サイフォン
- 配水管 (φ1,000mm) L=3,107.5m

オ 送配水施設（二条化ルート）

- 取水口～第1号サイフォン右岸側接合井
隧道 (W=1.6m×H=2.3m) L=1,699m
送水管 (φ1,800mm) L=818m

(15) 木屋川^{こやがわ}第2期工業用水道

下関地区の用水対策として、平成3年に下関市上水と共同で、既設湯の原取水堰堤の直下流に湯の原ダムを建設し、新たに22,000m³/日の給水を行うもので、平成3年から一部給水を開始し、現在6,800m³/日の給水能力を有している。

ア 貯水施設（湯の原ダム）

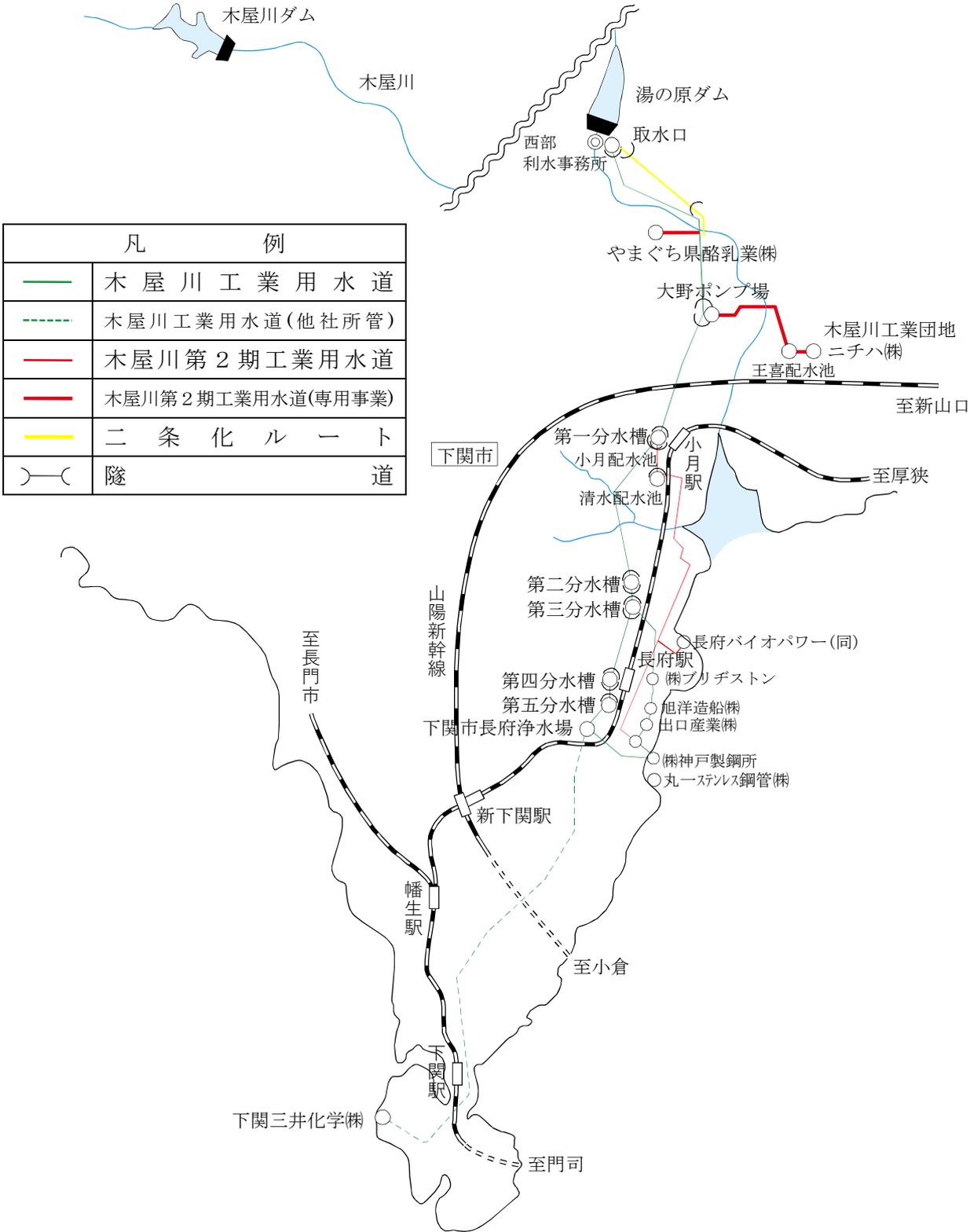
（共同事業：工水42.31%、上水57.69%）

- 型式 重力式コンクリートダム
- 堤高 18.5m
- 堤頂長 212.9m
- 堤体積 79,000m³
- 有効貯水量 2,050千m³（うち工業用水容量870千m³）
- 着工 昭和61年8月
- 竣工 平成3年3月

イ 送配水施設

- 隧道 (W=2.0m×H=2.0m) L=410m
- 送水管 (φ250mm～φ1500mm) L=13,220m
- 配水管 (φ250mm～φ1500mm) L=1,869m
- 送水ポンプ 30kW 2台

木屋川、木屋川第2期工業用水道概要図



V 資料

1 企業局の沿革

	電 気 事 業	工 業 用 水 道 事 業	共 通(組織)
大 正			13. 4 山口県電気局の発足
昭	28. 5 山口県営電気事業の再開	15. 10 錦川第 1 期利水事業完成 向道原水供給開始	17. 3 山口県電気局の解散 36. 10 土木建築部に公営企業課を 設置 40. 4 公営企業管理者設置 企業局発足(総務課、経理 課、工務課) 42. 1 法改正に伴い公営企業管理 者廃止 45. 8 公営企業管理者(専任)設置
	30. 2 木屋川発電所運転開始	21. 10 木屋川原水供給開始	
	31. 9 佐波川発電所運転開始	25. 3 厚東川原水供給開始	
	36. 4 地方公営企業法一部適用	34. 4 工業用水道事業法の制定によ り工業用水道事業として発足 35. 10 小瀬川工業用水道給水開始	
	40. 4 地方公営企業法全面適用	37. 4 地方公営企業法一部適用 37. 12 山口県工業用水道条例制定 38. 1 川上工業用水道給水開始 40. 4 地方公営企業法全面適用	
	40. 8 菅野発電所運転開始	41. 7 周南工業用水道給水開始	
	40. 9 水越発電所運転開始	42. 4 佐波川工業用水道給水開始	
	40. 10 徳山発電所運転開始	45. 3 小瀬川工業用水道第 2 期工事 完成	
		46. 4 柳井川工業用水道給水開始	
		46. 6 富田・夜市川工業用水道事業 及び厚東川第 2 期工業用水道 事業に着手	
和	50. 3 新阿武川発電所運転開始	47. 3 木屋川工業用水道事業送配水 施設拡張工事完成	51. 4 工務課を施設課及び建設課 とする。 55. 4 電力開発室を設置
		47. 4 厚狭川工業用水道事業及び木 屋川第 2 期工業用水道事業に 着手	
		49. 3 佐波川工業用水道事業増量工 事完成	
		49. 4 吉原・末武川工業用水道事業 に着手	
		51. 4 佐波川第 2 期工業用水道事業 に着手	
		54. 10 厚東川第 2 期工業用水道一部 給水開始	
		56. 8 富田・夜市川工業用水道一部 給水開始	
		57. 4 富田・夜市川工業用水道給水 開始	
		57. 10 厚東川第 2 期工業用水道給水 開始	

	電 気 事 業	工 業 用 水 道 事 業	共 通(組織)
昭 和	58. 7 本郷川発電所運転開始 59. 6 生見川発電所運転開始	57. 11 厚狭川工業用水道一部給水開始 60. 4 佐波川第 2 期工業用水道一部給水開始 60. 4 厚狭川工業用水道一部給水開始 62. 4 生見川工業用水道事業に着手 63. 4 生見川工業用水道一部給水開始	60. 3 電力開発室を廃止 60. 4 本局組織を改正(総務課、電気課、工業用水課)
	元. 4 小瀬川発電所運転開始 4. 3 末武川発電所運転開始	3. 4 木屋川第 2 期工業用水道一部給水開始 3. 4 小瀬川第 2 期工業用水道事業に着手 5. 1 吉原・末武川工業用水道一部給水開始 9. 11 厚狭川工業用水道給水開始 12. 4 小瀬川第 2 期工業用水道給水開始 19. 3 吉原・末武川工業用水道事業を末武川工業用水道事業に変更 21. 3 柳井川工業用水道事業を廃止 25. 3 小瀬川第 2 期工業用水道の未事業化分(先行水源)を一般会計に移管 25. 4 島田川工業用水道事業に着手	2. 4 木屋川利水事務所発足(木屋川発電所及び木屋川工業用水道事務所を組織統合) 4. 4 東部発電事務所発足(菅野発電所及び水越ダム管理事務所を組織統合) 4. 4 小瀬川第二期工業用水道建設現場事務所発足 6. 4 佐波川利水事務所発足(佐波川発電所と佐波川工業用水道事務所を組織統合) 6. 4 小瀬川第二期工事建設事務所発足 12. 3 小瀬川第二期工事建設事務所廃止 12. 4 本局組織を改正(総務課、電気工水課) 19. 4 西部利水事務所発足(木屋川利水事務所と新阿武川発電所を組織統合)佐波川発電所を東部発電所に統合 佐波川利水事務所を佐波川工業用水道事務所に変更 21. 3 柳井川工業用水道事務所を廃止(小瀬川工業用水道事務所へ組織統合)
平 成	26. 5 相原発電所運転開始 28. 4 宇部丸山発電所運転開始		
	7. 3 平瀬発電所運転開始	2. 7 島田川工業用水道給水開始	
令 和			

2 山口県企業局関係ダム一覧表

区分	小瀬川ダム	弥栄ダム	生見川ダム	平瀬ダム	向道ダム	菅野ダム	水越ダム	末武川ダム	川上ダム
水系及び河川名	小瀬川	小瀬川	錦川 生見川	錦川	錦川	錦川	錦川	末武川	富田川
築造年月	S40.3	H3.3	S60.3	R5.3	S15.10	S41.3	S41.3	H4.3	当初S37.3 嵩上S55.3
集水面積(k㎡)	135.0	301.0	72.4	336.2	152.2	225.2	270.0	44.1	22.2
湛水面積(k㎡)	0.90	3.60	1.09	1.33	0.85	3.02	0.14	0.69	0.62
堤高(m)	49.00	120.00	90.00	73.00	43.30	87.00	18.80	89.50	63.00
堤頂長(m)	158.00	540.00	215.00	300.0	120.90	272.00	81.70	275.00	187.30
常時満水位(ELm)	216.00	106.00	103.00	128.1	325.00	270.00	187.00	137.20	106.50
総貯水容量(千㎡)	11,400	112,000	30,800	29,500	7,031	95,000	796	19,570	13,720
夏期制限水位(ELm)	211.50	-	-	-	322.50	264.00	-	-	-
洪水調整容量(千㎡)	8,400	58,000	12,600	24,300	1,890	17,000	-	5,770	1,500
管理者	土木建築部 及び広島県	国土交通省	土木建築部	土木建築部	土木建築部	土木建築部	企業局	土木建築部	土木建築部
管理費用負担率(%)	治水(70.0) 工水(29.7) 電気(0.3)	治水(69.3) 工水(11.7) 上水(18.3) 中電(0.7)	治水(55.2) 工水(44.5) 電気(0.3)	治水(99.6) 電気(0.3) 上水(0.1)	工水(100.0)	治水(27.1) 工水(52.5) 電気(15.4) 上水(5.0)	電気(100.0)	治水(43.4) 工水(12.9) 電気(0.5) 上水(43.2)	治水(5.90) 工水(82.33) 上水(11.77)

区分	島地川ダム	佐波川ダム	厚東川ダム	宇部丸山ダム	美祢ダム	木屋川ダム	阿武川ダム	湯の原ダム
水系及び河川名	佐波川 島地川	佐波川	厚東川	厚東川 薬師川	厚狭川 日永川	木屋川	阿武川	木屋川
築造年月	S56.3	S31.3	S25.3	S54.3	S56.12	S30.3	S50.3	H3.3
集水面積(k㎡)	32.0	88.4	324.0	2.0	0.75	84.1	523.0	185.7
湛水面積(k㎡)	0.80	1.16	2.49	0.45	0.23	1.61	4.20	0.62
堤高(m)	89.00	54.00	38.80	32.00	32.00	41.00	95.00	18.50
堤頂長(m)	240.00	156.00	162.00	211.44	160.50	174.30	286.00	212.95
常時満水位(ELm)	286.50	186.50	39.00	39.00	109.00	96.50	95.00	25.50
総貯水容量(千㎡)	20,600	24,600	23,788	4,500	1,890	21,750	153,500	2,930
夏期制限水位(ELm)	-	181.00	38.00	-	-	95.15	79.50	24.80
洪水調整容量(千㎡)	7,200	8,100	7,076	-	-	9,000	65,000	-
管理者	国土交通省	土木建築部	土木建築部	企業局	企業局	土木建築部	土木建築部	企業局
管理費用負担率(%)	治水(46.4) 工水(39.7) 上水(13.9)	治水(89.13) 工水(4.77) 電気(6.10)	治水(9.25) 工水(88.16) 上水(2.59)	工水(77.97) 上水(22.03)	工水(100.0)	治水(61.25) 工水(35.15) 電気(3.60)	治水(87.0) 電気(13.0)	工水(42.31) 上水(57.69)